

1-3 利用者の移動実態と公共交通へのニーズ

1 移動実態（既存データ）

(1) 通勤・通学（国勢調査）

通勤移動は、下田市、松崎町、西伊豆町、南伊豆町は自市町内の通勤が多い一方、南伊豆町や松崎町からは下田市への移動も見られる。伊豆市は市内通勤者及び三島方面が多い。

通学移動は、下田市や松崎町は自市町内での通学がほとんどであるが、南伊豆町からは下田市、西伊豆町からは松崎町への通学が見られ、これらの移動に対する交通手段の確保が必要となる。

表 21 通勤・通学の移動実態（単位：人）

【通勤】	居住地	就業先														合計	
		熱海市	伊東市	三島市	清水市	函南町	伊豆の国市	東伊豆町	河津町	沼津市	下田市	伊豆市	南伊豆町	松崎町	西伊豆町		その他
	熱海市	13,877	461	272	54	137	115	8	2	333	6	36	1	-	-	2,745	18,047
	伊東市	1,435	27,089	261	47	53	235	428	49	365	109	435	3	3	3	1,762	32,277
	三島市	548	111	26,896	2,704	1,804	1,677	3	3	7,584	10	346	0	3	10	13,103	54,802
	清水市	61	22	2,168	5,892	232	386	1	1	4,483	4	78	1	-	2	2,741	16,072
	函南町	624	79	3,794	758	6,813	1,672	5	3	2,242	190	321	1	2	7	2,043	18,554
	伊豆の国市	214	177	2,738	637	1,238	13,433	8	7	2,420	17	1,676	1	4	5	1,994	24,589
	東伊豆町	27	872	16	2	4	4	5,332	247	26	279	19	23	7	7	96	6,961
	河津町	9	213	6	3	-	14	460	2,630	16	431	22	49	15	15	39	3,927
	沼津市	353	142	4,258	3,384	621	1,277	8	3	72,369	28	357	4	3	11	17,669	100,487
	下田市	22	220	22	8	2	12	286	359	30	9,867	19	646	100	69	202	11,883
	伊豆市	52	245	982	149	319	2,324	5	6	878	18	11,222	4	20	88	767	17,079
	南伊豆町	1	32	1	-	-	1	37	44	6	937	5	3,088	39	33	106	4,330
	松崎町	2	16	7	3	1	5	19	15	7	278	54	47	2,414	677	33	3,578
	西伊豆町	1	4	10	1	4	17	12	8	21	165	208	20	406	3,329	74	4,280
	その他	3,627	1,053	7,765	2,313	714	1,125	77	32	21,942	76	467	98	26	91	-	39,406
	合計	20,853	30,736	49,196	15,955	11,942	22,297	6,695	3,409	112,722	12,415	15,264	3,986	3,042	4,347	43,373	356,232

【通学】	居住地	通学先														合計	
		熱海市	伊東市	三島市	清水市	函南町	伊豆の国市	東伊豆町	河津町	沼津市	下田市	伊豆市	南伊豆町	松崎町	西伊豆町		その他
	熱海市	332	83	180	14	19	49	-	-	202	-	7	-	-	-	372	1,258
	伊東市	149	1,377	164	13	6	59	13	-	165	26	16	-	-	-	367	2,355
	三島市	24	-	3,082	111	131	569	-	-	721	-	112	0	-	-	1,426	6,176
	清水市	5	-	251	436	17	66	1	-	408	1	9	-	-	-	357	1,551
	函南町	7	-	451	25	355	190	-	-	208	-	106	-	-	-	362	1,704
	伊豆の国市	9	2	410	37	105	678	-	-	236	-	213	-	-	-	342	2,032
	東伊豆町	2	34	6	1	-	3	256	-	8	144	-	1	-	-	30	485
	河津町	4	2	4	-	-	-	75	27	6	106	-	-	-	-	18	242
	沼津市	21	1	994	236	57	103	-	-	5,151	3	42	-	-	-	2,015	8,623
	下田市	2	2	14	-	-	2	59	-	2	624	1	40	31	3	29	809
	伊豆市	3	5	265	13	80	181	-	-	84	4	724	-	1	-	172	1,532
	南伊豆町	-	2	-	-	-	-	4	-	119	-	93	-	12	-	8	238
	松崎町	-	1	1	-	-	1	-	-	20	2	11	-	176	-	2	204
	西伊豆町	-	-	2	-	-	4	-	-	32	12	-	-	114	36	2	202
	その他	144	85	2,430	145	46	126	3	0	3,870	25	56	3	0	1	-	6,934
	合計	702	1,594	8,254	1,031	816	2,031	411	27	11,061	1,104	1,300	138	334	40	5,502	34,345

（出典：平成 22 年国勢調査）

(2) 観光客

① 半島振興連携促進調査

■ 伊豆中南部地域への訪問前後の行動

伊豆中南部地域の訪問者のうち約 4 割は途中で立ち寄った箇所はない（中南部地域のみ目的地）と回答している。

他に立ち寄る場合の行き先は三島市、熱海市、伊東市が多くなっている。熱海市、伊東市への立ち寄り者は伊豆急行、三島市への立ち寄り者は伊豆箱根鉄道の利用が想定される。

※半島振興連携促進調査で示す伊豆中南部地域は、沼津市戸田地区、下田市、伊豆市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町の 3 市 5 町である

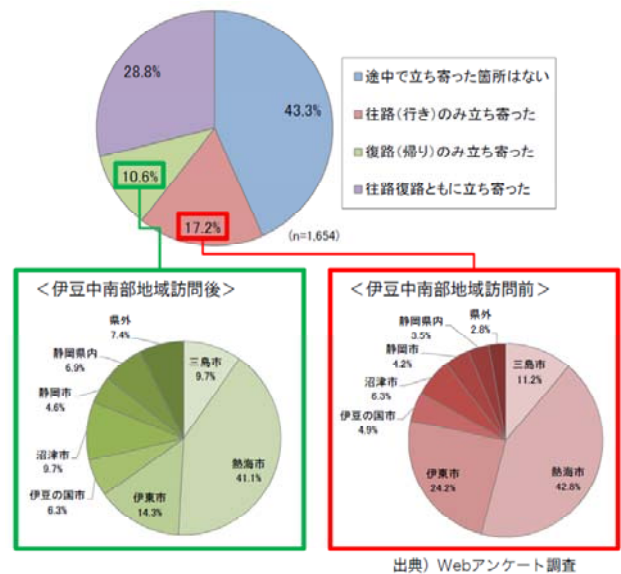


図 37 伊豆中南部地域への訪問前後の行動

■観光客の動き（2箇所以上周遊した人）

関東方面から来訪者のうち、2箇所以上周遊した人の移動実態については、伊豆市・下田市間の動きが最も多く、その他東海岸沿岸の伊豆急行線を軸とした動きが多い。中部方面からの来訪者は伊豆市から下田市への動きが最も多い。一方で、この区間の公共交通はバスが担うが、バス利用者の場合は自動車に比べ1.5倍程度の所要時間を要する（図28）ことが、公共交通利用の選択がされにくい理由の一つとなる。

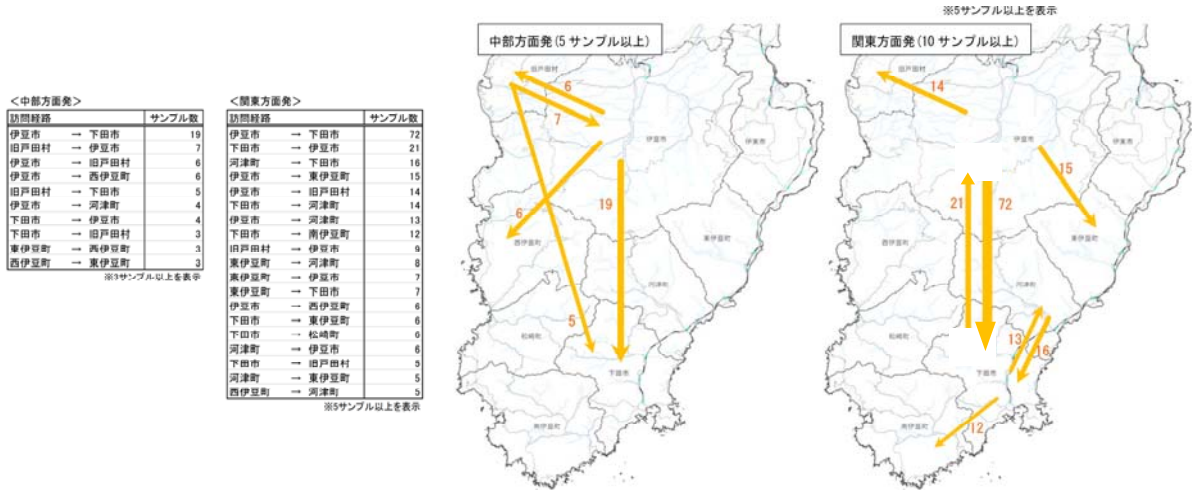


図 38 観光客の動き

■観光移動での交通手段

【伊豆中南部地域までの交通手段】

新幹線・鉄道が最も多く、中部地方からの来訪時は船舶（フェリー等）利用も見られる。バスに関しては、路線バス・高速バスと貸切バスを合わせると、全体の約15%がバスでの来訪である。

【伊豆中南部地域内での交通手段】

鉄道での移動が最も多いが、路線バスも22.4%と多く、貸切バスは8.8%である。

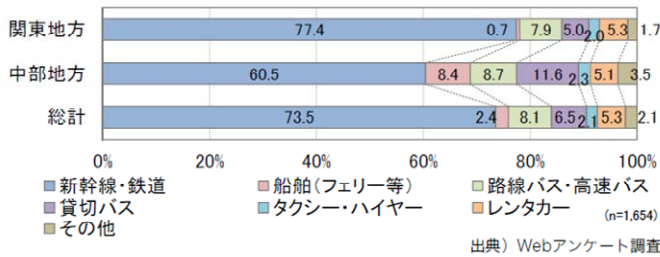


図 39 伊豆中南部地域までの交通手段

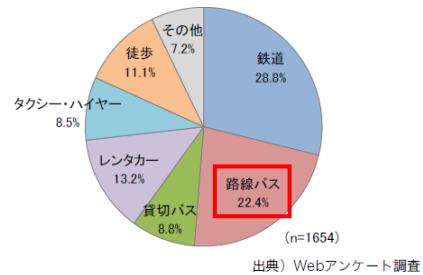


図 40 伊豆中南部地域内での交通手段

■三島・伊東への来訪者の伊豆中南部地域までの訪問の有無

三島や伊東へ訪問した人の81.0%が伊豆中南部地域を訪問しておらず、その理由としては「旅程上時間が無かったから」の他、「バスや鉄道等の公共交通が不便だから」と回答した人が10.6%であった。公共交通の不便さと、観光情報や運行情報を適切に明示することが課題である。

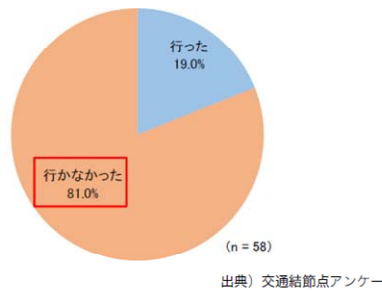


図 41 伊豆中南部地域への訪問状況
(三島・伊東への来訪者)

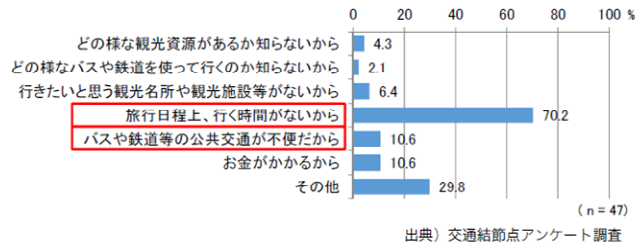


図 42 伊豆中南部地域へ行かなかった理由
(三島・伊東への来訪者)

■観光移動において活用したいサービス、期待するサービス

「利用可能な移動手段や観光マップ」「旅行計画を補助するウェブサイト」について「すでに活用している」「ぜひ活用したい」の回答が多く、移動手段や移動時間に関する情報案内が求められているものと考えられる。

また、「お得に公共交通を利用できる商品」についても「すでに活用している」「ぜひ活用したい」の回答が多い。(表 20) に示すように、お得な周遊パスが数多く販売されているが、これらの周知等も必要と考えられる。

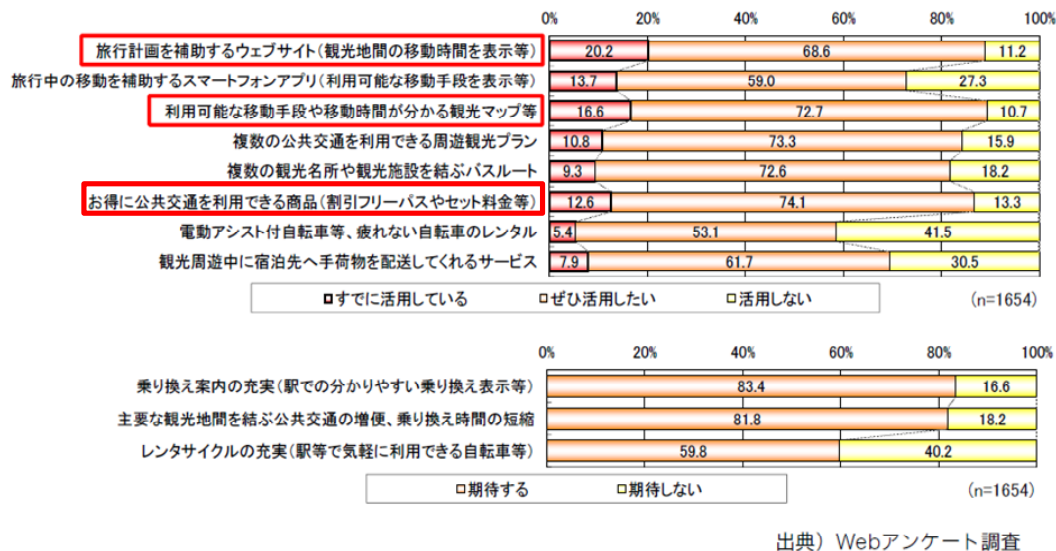


図 43 活用したいサービス・期待するサービス

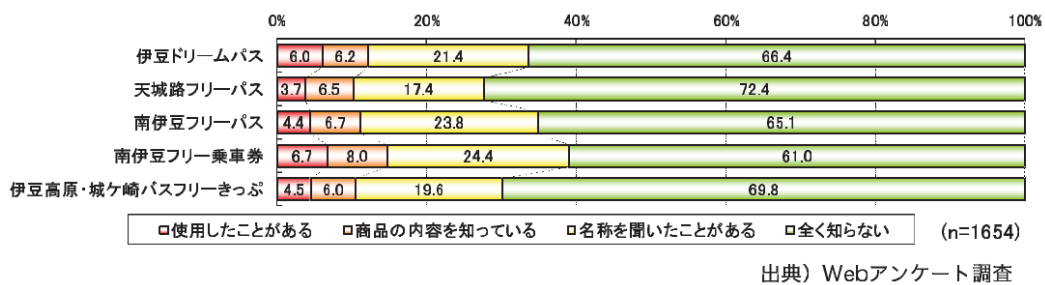


図 44 主な周遊きっぷの認知度

■訪問した市町内での交通手段

訪問した市町内での移動手段は、市町によって傾向が異なり、伊豆市や西伊豆町では「路線バス」と回答した人の割合が 40%を超えている一方で、沼津市戸田地区では、「レンタカー」と回答した人の割合が 75%であった。

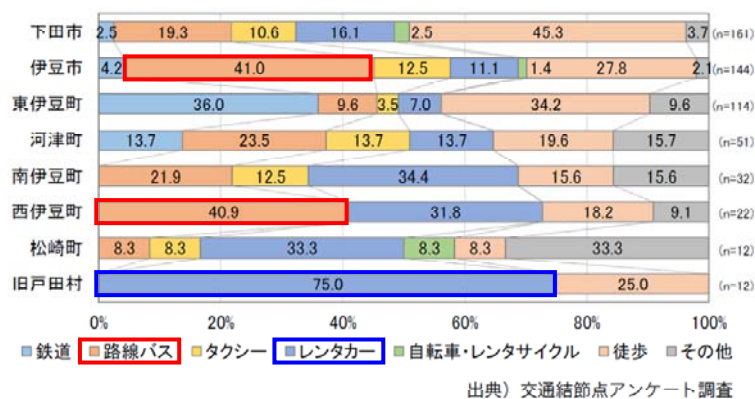


図 45 訪問市町内での移動手段（立ち寄り観光地への移動手段）

■各市町での移動に関する問題点

移動に関する問題として、西伊豆町、松崎町など伊豆半島西部や沼津市戸田地区については、「移動に長時間を要する」が最も高く 30%程度の回答があった。

南伊豆町では「利用できる交通手段がない」が 50%と高い割合であった。

（表 13）に示す観光施設利用者数ベースの公共交通のカバー率が高いことを踏まえると、「利用できる交通手段がない」という意見は、路線はあるが運行本数が少なく利用できないなどの意見と考えられる。

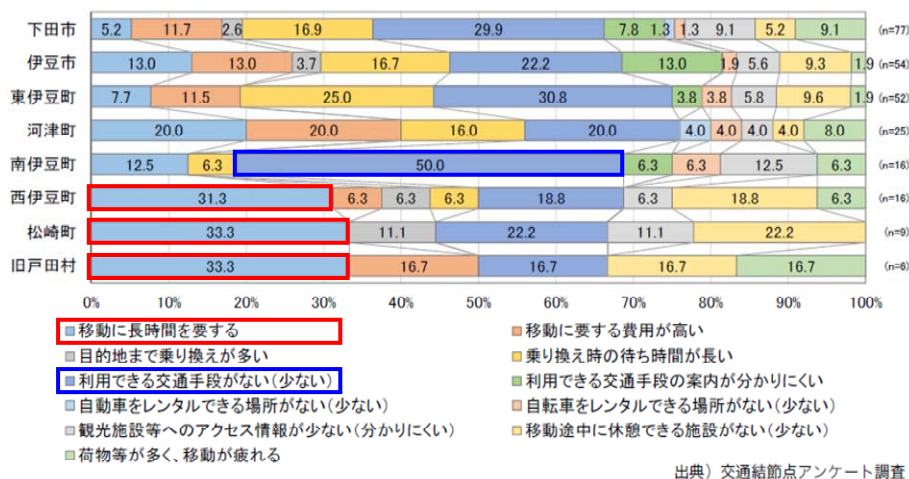


図 46 訪問市町内での移動に関する問題点（「特に問題点はない」の回答を除く）

■交通情報の入手媒体（旅行計画時）

旅行時の情報入手媒体は「インターネット」が42.7%と最も多く、次いで「スマートフォン・タブレット等」が17.1%であり、これらの媒体から情報を得ている人が全体の60%程度を占めている。これらの媒体への情報提供の必要性や有効性が確認できる。

【最も活用した交通情報の入手媒体】

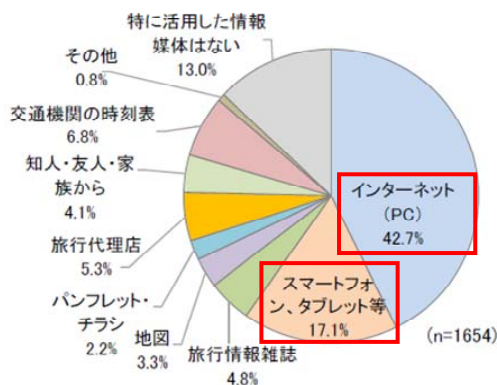


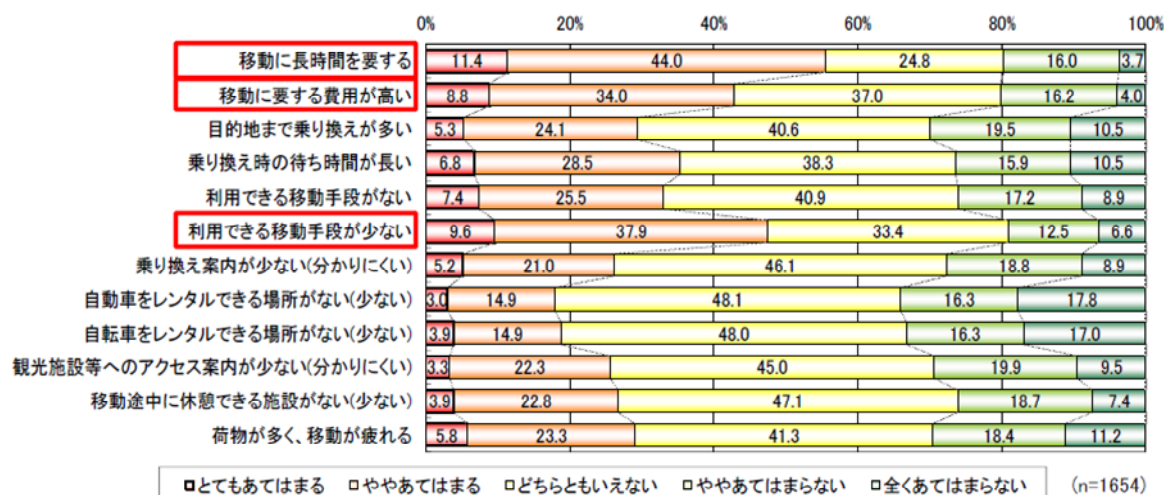
図 47 旅行計画時の交通情報の入手媒体

■移動に関する問題点・不満点

移動に関する問題点、不満点は、「移動に長時間を要する」「利用できる移動手段が少ない」「移動に要する費用が高い」について「とてもあてはまる」と回答した人の割合が高い。

「移動に長時間を要する」といった不満点については、バス路線網の地域内移動における所要時間が自動車の1.5倍であり、その他待ち時間や乗継ぎを考えると、より多くの時間を要することにより、「とてもあてはまる」の回答割合が高かったと考えられる。

「利用できる移動手段が少ない」については、バス路線はあるものの、運行本数が少なく利用できないなどの意見と考えられる。



出典) Webアンケート調査

図 48 移動に関する問題点・不満点

②平成 24 年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査／静岡県 文化・観光部

■観光客の利用交通手段

旅行の移動に利用した交通手段は、「自家用車、社用・公用車」が伊豆地域※において 74.3%を占めている。公共交通の利用については、J R 在来線が 17.4%、J R 新幹線が 6.3%、私鉄・地下鉄が 5.9%であり、市内バスは 7.0%である。

季節変動を見ると、夏季において「自家用車、社用・公用車」の割合が、秋季、冬季と比べて高い。

表 22 観光客の移動実態

利用交通手段（複数回答可）

(単位：%)

	全体	メイン訪問地域別				季節別			居住地別							
		伊豆地域	富士地域	中部地域	西部地域	夏季	秋季	冬季	静岡県	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
件数	6,270	2,195	1,069	1,397	1,540	2,024	2,114	2,132	2,372	11	40	2,386	986	380	52	33
自家用車、社用・公用車	77.3	74.3	87.2	68.6	83.1	84.8	71.0	76.5	86.1	45.5	50.0	72.1	79.6	61.1	46.2	39.4
J R 在来線	11.4	17.4	6.4	11.6	5.9	10.2	10.8	13.1	4.8	45.5	37.5	18.6	6.0	13.7	28.8	30.3
貸切バス・観光バス	7.4	4.8	3.5	14.7	6.8	2.1	13.2	6.7	3.4	27.3	10.0	5.8	14.0	20.5	26.9	18.2
J R 新幹線	6.8	6.3	4.3	7.7	8.1	6.0	7.7	6.6	0.9	36.4	45.0	9.7	5.1	16.8	40.4	33.3
私鉄・地下鉄	6.1	5.9	1.8	14.0	2.4	5.9	6.6	5.8	2.7	18.2	12.5	8.3	6.8	9.5	11.5	12.1
市内バス	5.3	7.0	3.2	7.9	2.1	5.7	5.3	4.9	3.2	36.4	12.5	7.5	2.6	7.9	17.3	6.1
タクシー・ハイヤー	2.7	3.4	1.5	3.2	2.2	2.5	3.1	2.5	0.9	0.0	12.5	4.1	1.9	5.0	5.8	21.2
レンタカー	1.5	2.0	1.0	1.4	1.4	1.4	1.9	1.3	0.5	9.1	2.5	2.5	0.7	2.9	3.8	6.1
フェリー	0.8	1.4	0.2	0.6	0.3	0.8	1.0	0.4	0.6	18.2	0.0	0.8	0.3	2.1	0.0	6.1
高速バス	0.7	0.4	1.6	0.6	0.5	0.6	0.7	0.8	0.0	9.1	0.0	0.9	0.5	2.1	3.8	9.1
飛行機	0.5	0.4	0.3	0.9	0.6	0.4	0.9	0.4	0.0	81.8	5.0	0.0	0.0	0.3	7.7	48.5
その他	3.1	2.6	2.1	6.6	1.4	1.9	3.9	3.6	5.0	9.1	0.0	2.0	1.1	3.2	7.7	6.1

※静岡県における観光の流動実態と満足度調査で示す伊豆地域とは、沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町を含む地域を示す

2 公共交通の利用実態

(1) 路線バスの利用概況

本計画の策定に当たっては、旧町単位などを勘案した、右図に示す地区において、住民アンケート調査を実施した。

乗降調査の結果について、地区内の乗降バス停における乗降数合計し、地区間の移動数を線の太さで図示する。また、各地区内における移動数については、地区を着色して図示する。

結果を次頁に示す。



伊豆市修善寺地区と中伊豆地区・土肥地区・天城湯ヶ島地区、伊豆市修善寺地区と沼津市戸田地区、西伊豆町宇久須地区と田子地区、西伊豆町の仁科地区と松崎町松崎地区、松崎町松崎地区と中川地区、下田市下田武ガ浜地区と松崎町松崎地区、下田市下田武ガ浜地区と南伊豆町竹麻地区・南中地区などの地区間移動が多く、これらの移動を支えるバス路線は、地域間の広域移動へ対応する路線として機能していると言える。

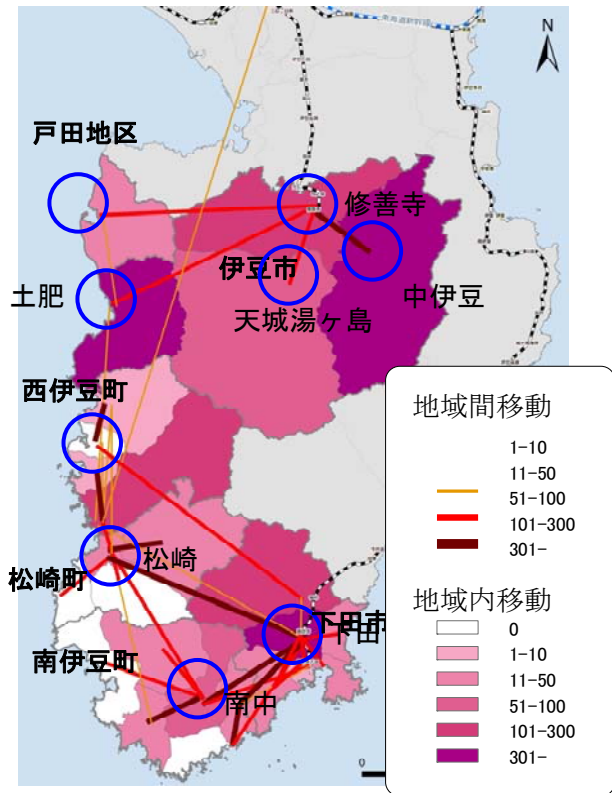


図 49 路線バスの地区別利用状況（人／日）

(2) 定期券利用者の概況

定期券利用者は、伊豆市修善寺地区と天城湯ヶ島地区、西伊豆町宇久須地区と安良里地区、松崎町松崎地区と中川地区・岩科地区、南伊豆町南中地区と三坂地区、南伊豆町竹麻地区と南崎地区などの利用が多く、通学定期の利用による市町内移動が多いことによるものと思われる。

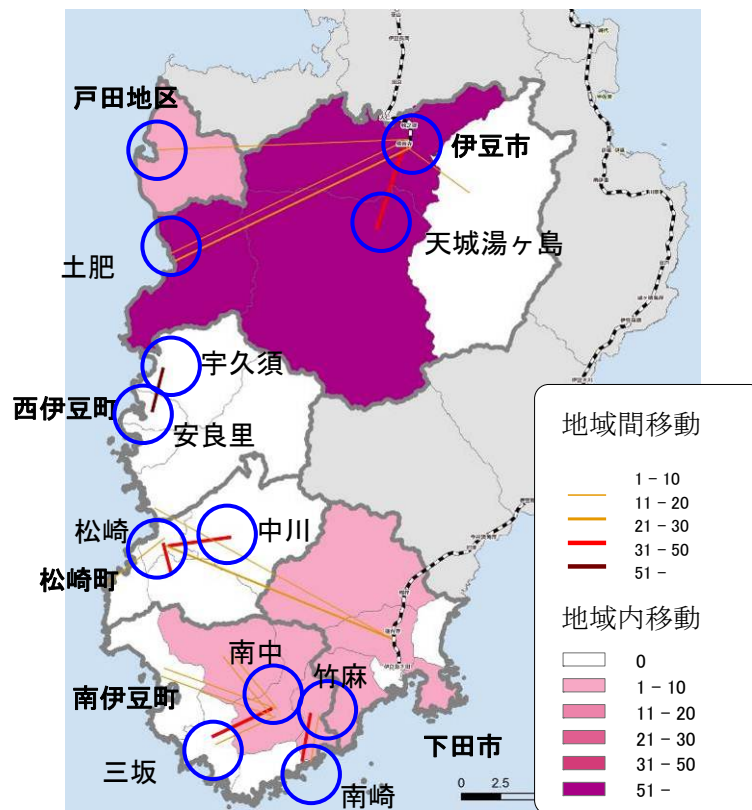
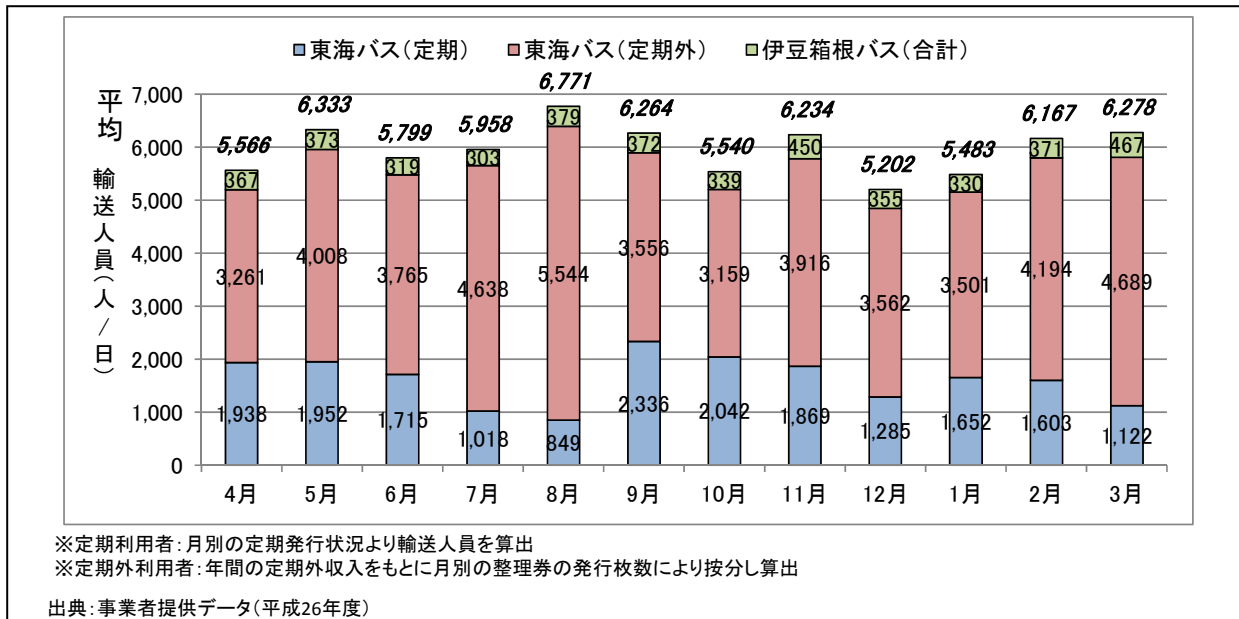


図 50 定期券利用者の利用区間及び利用者数（人／日）

(3) バス利用者の月別推移

8月の輸送人員が年間を通じて最も多く、特に東海バスの定期外の利用が増加している。こ



これは、夏季の観光需要が利用者の増加に影響しているものと推測される。

図 51 バス利用者の月別推移

(4) バス利用者の年別推移

平成 24 年度から平成 25 年度は微増であったが、平成 26 年度には減少した。

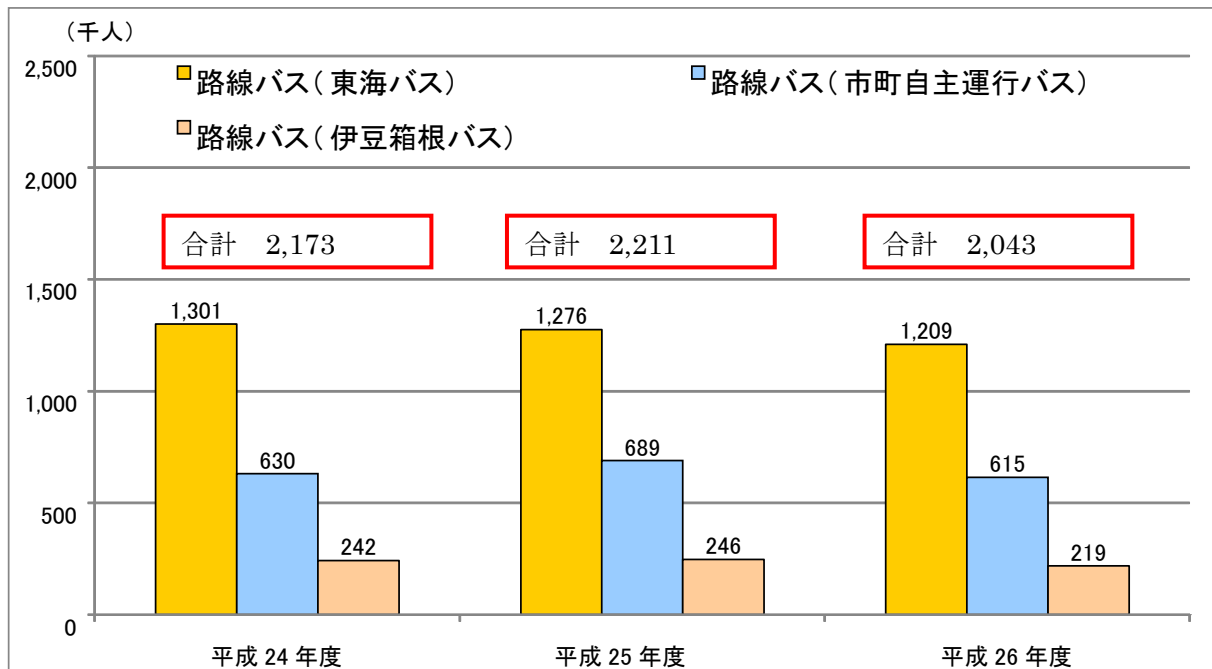
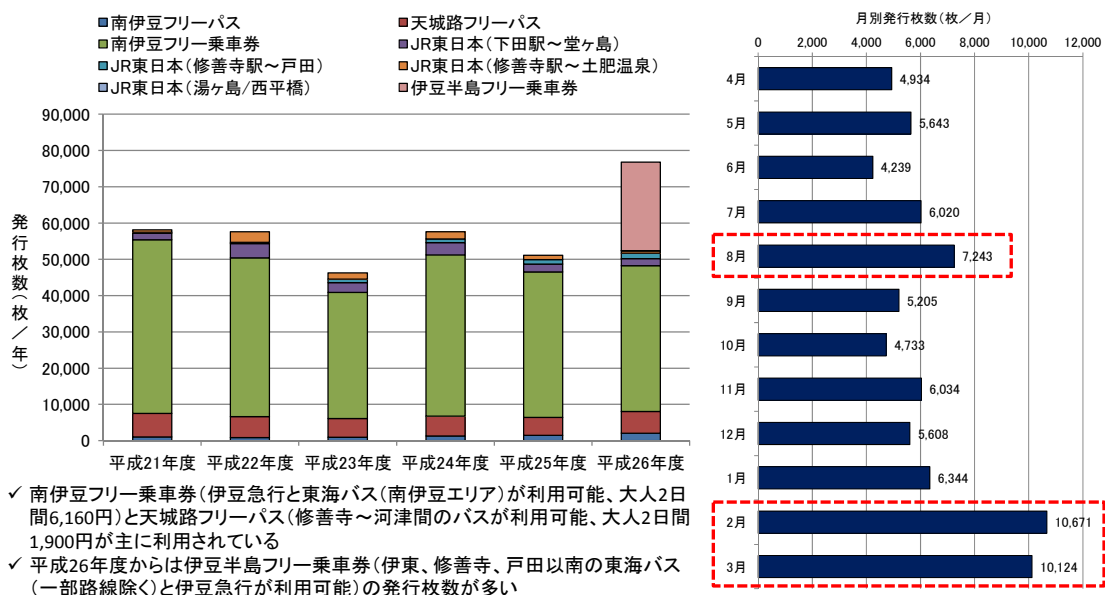


図 52 バス利用者の年別推移 (出典: バス事業者データ)

(5) 周遊パスの利用状況

周遊パスの発行枚数の合計は、平成 25 年度までは横ばいであるが、平成 26 年度から伊豆半島フリー乗車券が発売され、発行枚数が大きく増加している。月別では、2月、3月、8月の順に多く、桜シーズンや夏季のレジャーシーズンの観光需要によるものと考えられる。



出典: 事業者提供データ

図 53 周遊パスの利用状況

3 地域間路線の便別乗車状況

ここでは地域内を運行するバス路線のうち、市町をまたがる広域路線 7 路線について、便別の使われ方の現状について整理する。

(1) 西海岸線

■利用傾向

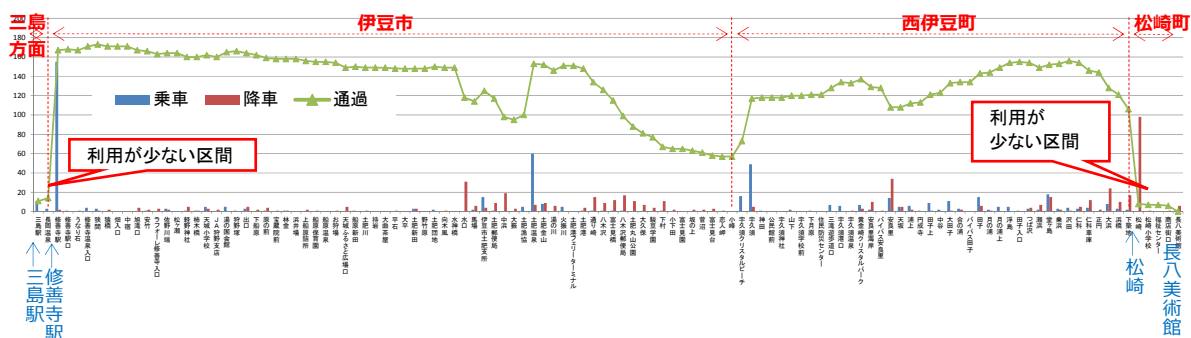
<全体傾向>

- ・修善寺駅-松崎間では、土肥地区（土肥温泉を中心とした区間）の乗降が多く、また西伊豆町宇久須～松崎町松崎にかけても広く乗降があり、宇久須、安良里の乗降が多い。
- ・一方、三島駅-修善寺駅間、松崎-長八美術館間の利用が少ない。

<特急・快速の利用傾向>

- ・特急便の利用者数は、12時15分三島駅発便6名、9時30分松崎発便7名と利用が限られている便がある。
- ・特急バスが三島市からの広域バスであるにもかかわらず、伊豆市～松崎町間の利用が主体となっており、必ずしも三島市などから広域に移動する利用者が多いという状況ではない。（例えば、14時15分の三島駅発快速便は、全利用者が22名であるが、主体は伊豆市内で完結する14名であり、三島市から伊豆市以南にまたぐ広域利用はわずか2名である。三島駅からの利用が少ない。

1) 往路（三島・修善寺 → 堂ヶ島・松崎）



2) 復路（松崎・堂ヶ島 → 修善寺・三島）

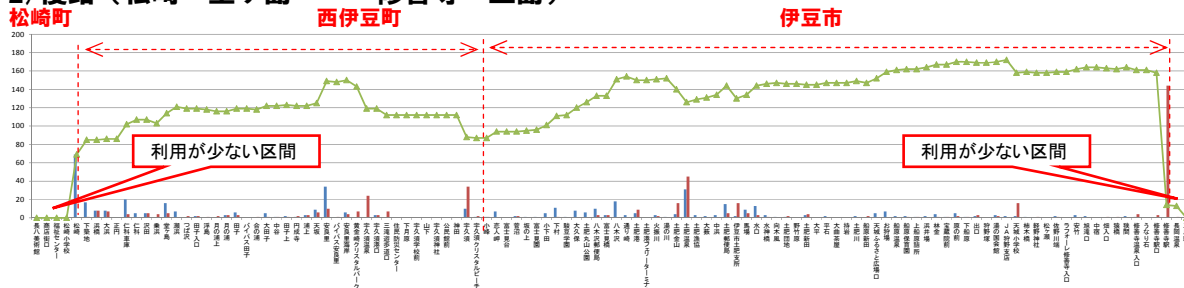


図 54 西海岸ルート・平日一日の利用状況（修善寺—松崎間：1日の便の集計）

■時間帯別利用傾向（朝時間帯の利用）

- ・西海岸線の午前便の松崎方面の路線については、高校生の通学利用として修善寺-水口間、宇久須-松崎間の利用に分かれており、馬場（伊豆市土肥地区）-宇久須クリスタルビー

チ（西伊豆町）間の利用はほとんどない。朝は広域路線の利用が二分されるなど時間帯によって乗車が少ない区間がある。

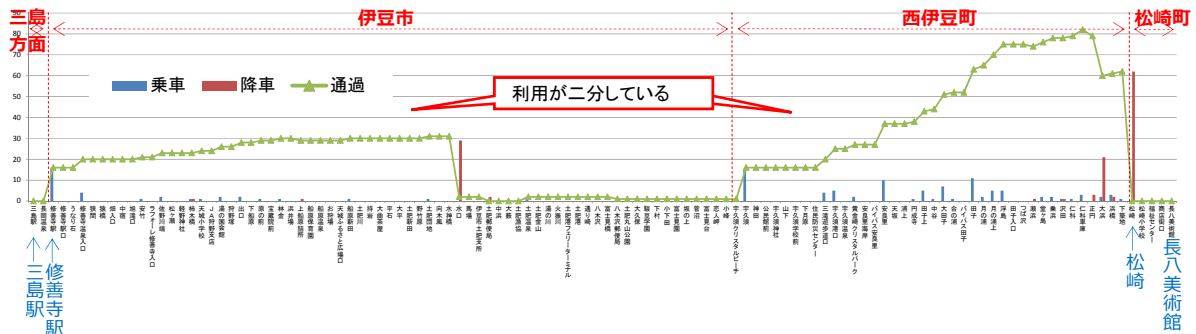


図 55 西海岸ルート・朝時間帯の利用状況（朝9時まで）（対象6便の集計）

(2) バサラ線

■ 利用傾向

- ・乗降者が多い下田駅、松崎を起点・終点とした広域移動が朝夕を中心に発生している。
- ・松崎高校バス停、稲生沢小学校バス停（下田高校の最寄バス停）での利用が多く、高校生の通学利用が多い路線である。
- ・松崎以北の区間では、利用は少ない。

■ 時間帯別利用傾向

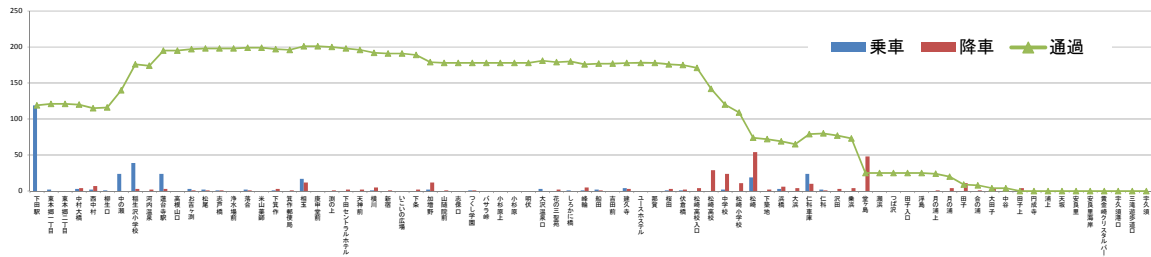
- ・下田駅発の便は、朝夕の利用の他、日中でも利用が多い。朝夕は主に通学に利用されているが、日中は観光とその他一般の利用が多い。特に日中の下田駅発 13 時 00 分、14 時 00 分の便は観光利用が多いのが特徴である（13 時 00 分、14 時 00 分の便は、特急踊り子号の到着時間 12 時 46 分、13 時 29 分に接続している）。
- ・宇久須・堂ヶ島・松崎発の便も、朝夕に利用が集中している。朝夕は主に通学に利用されており、日中はその他一般が多い。
- ・下田駅発と比較すると、宇久須・堂ヶ島・松崎発の便は利用が少ない
- ・運行時間によっては、ほとんど利用されていない便も存在している。

表 23 運行便別利用者数（宇久須・堂ヶ島・松崎⇒バサラ峠⇒下田駅行）

No.	系統番号	始発		終点		利用者数	旅客種別				旅行目的				市町村間移動					備考	
		停留所	時刻	時刻	停留所		幼稚園	小学生	中学生	高校生	一般	通勤	通学	観光	その他一般	西伊豆町-西伊豆町	西伊豆町-松崎町	西伊豆町-下田市	松崎町-松崎町		下田市-松崎町
1	5213	宇久須	05:32	06:49	下田駅	13	0	0	11	2	1	11	0	1	0	0	0	0	12	1	
2	5211	堂ヶ島	06:45	07:43	下田駅	43	0	6	34	3	2	40	0	1	0	0	9	0	25	9	
3	5312	宇久須	06:40	08:01	下田駅	32	0	0	29	3	0	29	0	3	2	3	27	0	0	0	
4	5213	松崎	08:05	08:55	下田駅	11	0	0	0	11	1	0	2	8	0	0	0	1	4	6	
5	5211	堂ヶ島	08:50	09:48	下田駅	10	0	0	0	10	0	0	3	7	0	1	3	0	2	4	
6	5211	堂ヶ島	09:45	10:43	下田駅	18	0	0	0	18	0	0	7	11	0	2	5	5	0	6	
7	5211	堂ヶ島	10:30	11:28	下田駅	7	0	0	0	7	0	0	2	5	0	0	2	1	0	4	
8	5211	堂ヶ島	11:05	12:03	下田駅	11	0	0	0	11	0	0	3	8	0	2	0	5	1	3	
9	5211	堂ヶ島	11:40	12:38	下田駅	7	0	0	0	7	0	0	4	3	0	1	4	0	0	2	
10	5211	堂ヶ島	12:30	13:28	下田駅	14	0	0	0	14	0	0	4	10	0	3	2	3	5	1	
11	5211	堂ヶ島	13:15	14:13	下田駅	7	0	0	0	7	0	0	2	5	1	0	2	0	0	4	
12	5211	堂ヶ島	13:50	14:48	下田駅	2	0	0	0	2	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	
13	5211	堂ヶ島	14:40	15:38	下田駅	9	0	0	0	9	1	0	4	4	0	0	4	2	2	0	
14	5231	堂ヶ島	15:30	16:32	下田駅	19	0	5	4	10	0	7	2	10	0	0	2	4	9	1	
15	5211	堂ヶ島	16:10	17:08	下田駅	18	0	11	0	7	0	10	0	8	0	1	1	11	2	0	
16	5211	堂ヶ島	17:00	17:58	下田駅	11	0	6	5	0	6	1	4	0	1	0	1	8	1	0	
17	5213	松崎	18:10	18:59	下田駅	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	
18	5213	松崎	19:05	19:54	下田駅	16	0	0	15	1	0	11	0	5	0	0	1	14	1	0	
合計						250	0	22	0	99	129	5	114	34	97	4	14	61	37	84	50

利用が少ない便

1) 往路 (下田駅 → バサラ峠 → 松崎・堂ヶ島)



2) 復路 (松崎・堂ヶ島 → バサラ峠 → 下田駅)

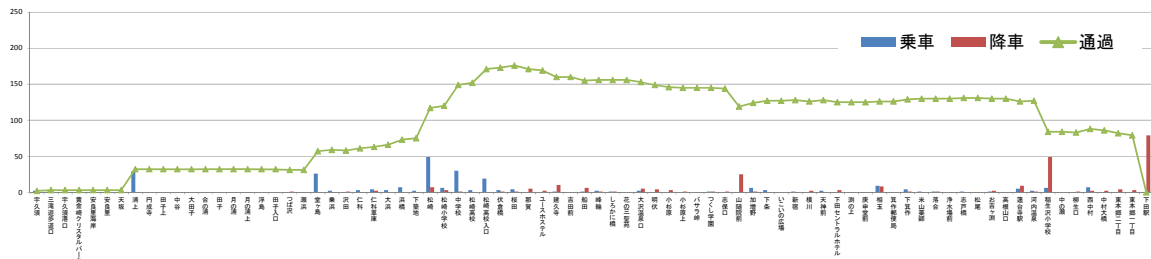


図 56 バサラ線・平日一日の利用状況 (下田—松崎・堂ヶ島間：1日の便の集計)

(3) 石廊崎線

■ 利用傾向

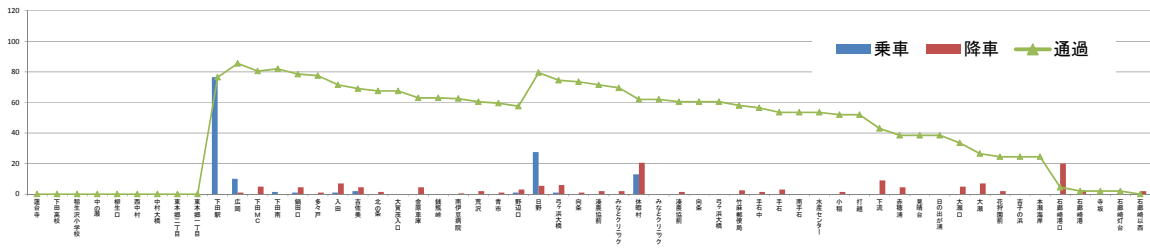
- ・ 下田駅、石廊崎港口での乗降が多く、下田市から南伊豆町間を広域に移動する利用者が多い。
- ・ 下田駅、日野、休暇村、石廊崎のバス停における利用が多いほか、南伊豆町の竹麻小学校の通学で弓ヶ浜大橋のバス停の利用も多い。
- ・ 下田駅発石廊崎行の日中便の利用が少ない。この前後の便においては、観光の需要の多い便があるが、12時35分下田駅発便は特急踊り子号の到着に接続しているものの利用者が少ない。

表 24 運行便別利用者数 (下田駅⇒休暇村⇒石廊崎行)

No.	系統番号	始発		終点		利用者数	旅客種別					旅行目的				市町村間移動			備考
		停留所	時刻	時刻	停留所		幼稚園	小学生	中学生	高校生	一般	通勤	通学	観光	その他一般	下田市—下田市	下田市—南伊豆町	南伊豆町—南伊豆町	
1	4052	下田駅	06:55	07:26	石廊崎港口	5	0	0	0	0	5	3	0	0	3	2	3	0	
2	4412	下田駅	08:20	09:00	石廊崎港口	7	0	0	0	0	7	0	0	0	7	3	4	0	
3	4011	下田駅	09:00	09:38	石廊崎港口	4	0	0	0	0	4	1	0	3	0	0	4	0	
4	4031	下田駅	10:00	10:38	石廊崎港口	13	0	0	0	0	13	0	0	12	1	0	0	13	
5	4032	下田駅	10:40	11:18	石廊崎港口	5	0	0	0	0	5	0	0	1	4	0	5	0	
6	4032	下田駅	11:30	12:08	石廊崎港口	6	0	0	0	0	6	0	0	2	4	0	5	1	
7	4032	下田駅	12:10	12:48	石廊崎港口	7	0	0	0	0	7	0	0	0	7	4	1	2	
8	4411	下田駅	12:35	13:15	石廊崎港口	2	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	1	0	
9	4412	下田駅	13:20	14:00	石廊崎港口	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	
10	4412	下田駅	14:25	15:05	石廊崎港口	26	0	3	0	2	21	0	5	12	9	8	15	3	
11	4032	下田駅	15:10	15:48	石廊崎港口	11	0	6	0	0	5	0	6	0	5	1	4	6	
12	4032	下田駅	16:00	16:38	石廊崎港口	11	0	9	0	0	2	0	9	0	2	1	1	9	
13	4431	下田駅	16:40	17:19	石廊崎港口	15	0	7	4	5	0	10	0	5	3	6	7		
14	4062	蓮台寺	17:10	17:59	石廊崎港口	5	0	0	1	4	1	1	0	3	1	4	0		
15	4062	下田駅	18:25	19:02	石廊崎港口	7	0	3	1	3	1	4	0	2	2	3	2		
16	4052	下田駅	19:25	19:56	石廊崎港口	10	0	1	9	1	1	9	1	0	4	7	0		
合計						135	0	18	10	16	91	6	44	31	55	29	63	43	

利用が少ない便

1) 往路 (下田駅 → 休暇村 → 石廊崎)



2) 復路 (石廊崎 → 休暇村 → 下田駅)

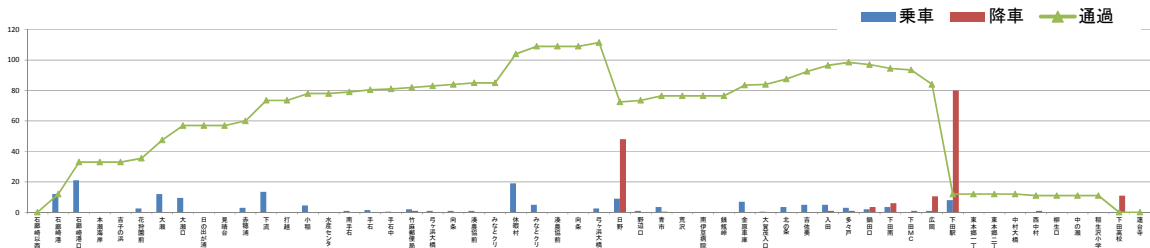


図 57 石廊崎線・平日一日の利用状況 (下田—石廊崎間：1日の便の集計)

(4) 下田駅～下賀茂～松崎線

■ 利用傾向

- ・ 下田駅発の便については、下田駅での乗車が特に多くなっており、日野での降車、下賀茂での乗降、伊浜や松崎高校での降車も多く見られ、高校生を中心とした広域利用がされている。この他、南伊豆町の小中学生の利用も多い路線である。
- ・ 松崎発の便については、乗車が突出したバス停はないが、松崎町、南伊豆町、下田市において広く乗車している。降車は前原橋、松崎高校が多い。
- ・ 高校生の通学の広域利用の他、小学生も利用する通学利用が主体の路線である。通学時間以外の日中において、特に松崎発の午後便でほとんど利用されていない便がある。

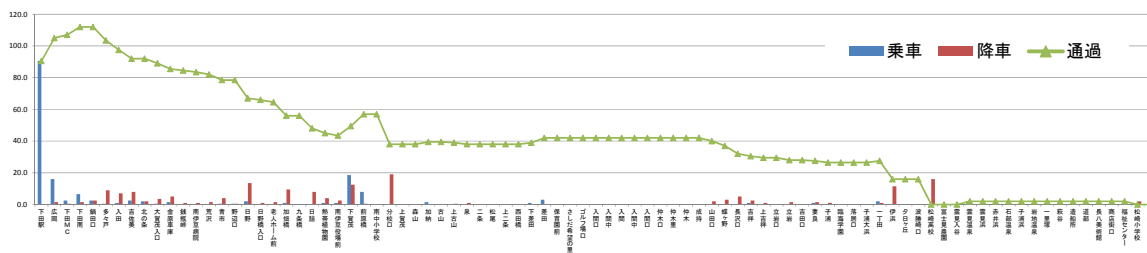
表 25 運行便別利用者数 ((堂ヶ島、伊浜、子浦～) 下賀茂⇒日野⇒下田駅行)

No.	系統番号	始発		終点		利用者数	旅客種別					旅行目的				市町村間移動					備考		
		停留所	時刻	時刻	停留所		幼稚園	小学生	中学生	高校生	一般	通勤	通学	観光	その他一般	西伊豆町—松崎町	松崎町—松崎町	松崎町—南伊豆町	松崎町—下田市	南伊豆町—南伊豆町		南伊豆町—下田市	下田市—下田市
1	4213	下賀茂	06:13	06:36	下田駅	4	0	1	2	2	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	2	3	
2	4121	伊浜	06:24	07:43	蓮台寺	45	12	18	13	2	0	43	0	2	0	0	0	0	0	30	10	5	
3	4161	中木	06:55	08:02	蓮台寺	52	31	6	13	2	0	50	0	2	0	0	0	0	39	7	6		
4	4161	伊浜	06:55	08:14	蓮台寺	46	20	0	16	10	5	36	0	5	0	0	0	0	22	14	10		
5	4451	中木	07:45	08:42	下田駅	10	0	0	1	9	2	1	0	8	0	0	0	0	2	5	3		
6	4441	伊浜	08:00	09:09	下田駅	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	2	3	1		
7	4442	子浦	09:20	10:11	下田駅	10	0	0	0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	1	6	3		
8	4213	下賀茂	10:10	10:35	下田駅	3	0	0	0	3	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
9	5251	堂ヶ島	10:00	11:40	下田駅	14	0	0	0	14	0	0	3	11	1	2	0	3	2	3	3		
10	4081	子浦	11:36	12:25	下田駅	5	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	1	4		
11	4442	子浦	13:00	13:51	下田駅	4	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	3	1		
12	4441	伊浜	13:20	14:29	下田駅																	土日運行	
13	4124	吉祥	13:40	14:17	下田駅	4	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	0	3	1		
14	4443	下賀茂	15:41	16:08	下田駅	6	1	0	0	5	0	1	0	5	0	0	0	0	1	2	3		
15	4131	伊浜	15:35	16:53	下田駅	14	0	0	11	3	0	11	1	2	0	0	0	0	13	1	1		
16	4131	伊浜	16:37	17:55	下田駅	4	0	0	2	2	1	2	0	1	0	0	0	0	4	1	0		
17	4213	下賀茂	18:15	18:38	下田駅	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
18	5272	松崎高校	18:00	19:15	金原車庫	6	0	0	6	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0		
19	4122	伊浜	18:02	19:03	下田駅	4	0	0	3	2	0	3	0	2	0	0	0	1	3	1			
20	4021	下賀茂	19:26	19:49	下田駅	3	0	0	1	2	0	1	0	2	0	0	0	0	2	1	0		
21	5271	松崎高校	19:15	20:42	下田駅	9	0	0	9	0	0	9	0	0	0	0	9	0	0	0	0		
合計						247	0	64	25	76	82	9	165	6	68	1	2	15	3	100	80	47	

利用が集中

利用の少ない便

1) 往路（下田駅 → 下賀茂 → 子浦 → 松崎）



2) 復路（松崎 → 子浦 → 下賀茂 → 下田駅）

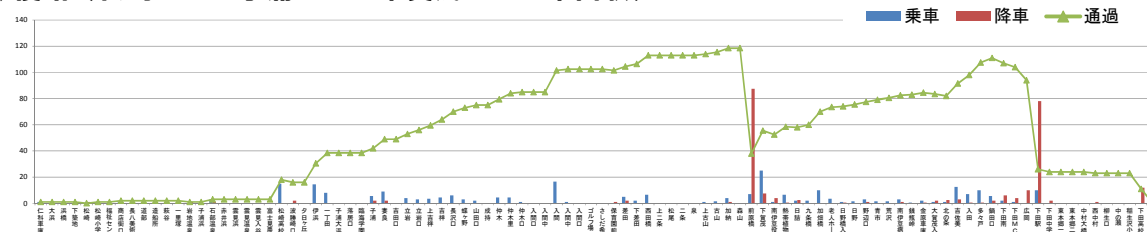


図 58 下田駅～下賀茂～松崎線・平日一日の利用状況（下田—松崎間：1日の便の集計）

(5) 天城峠線

■ 利用傾向

- ・ 修善寺駅、河津駅、下田駅での乗降が多い。
- ・ 伊豆急下田駅から修善寺駅方面では、河津町内や伊豆市内での利用が主であり、下田市から伊豆市、河津町から伊豆市、下田市から河津町といった広域の利用は少ない。同様に、下田市へ至る広域の利用が少ない。

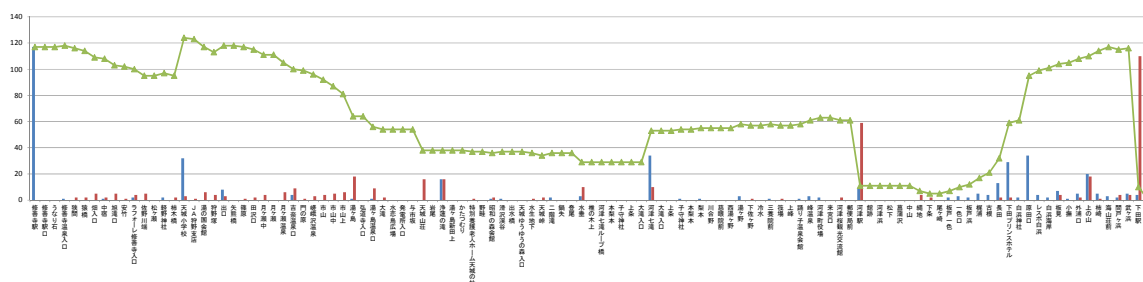
天城峠線とは別に、南伊豆町、下田市から順天堂大学附属静岡病院を結ぶバスが運行している。

表 26 運行便別利用者数（下田駅⇒板戸一色⇒河津駅⇒修善寺駅行）

No.	系統番号	始発		終点		利用者数	旅客種別					旅行目的				市町村間移動					備考	
		停留所	時刻	時刻	停留所		幼稚園	小学生	中学生	高校生	一般	通勤	通学	観光	その他一般	下田市 下田市	下田市 河津町	下田市 伊豆市	河津町 河津町	河津町 伊豆市		伊豆市 伊豆市
1	4272	下田駅	06:27	06:42	板戸一色	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
2	4272	下田駅	07:10	07:25	板戸一色	12	0	12	0	0	0	0	12	0	0	12	0	0	0	0	0	
3	4272	下田駅	07:50	08:05	板戸一色	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0		
4	4272	下田駅	08:15	08:30	板戸一色	2	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0		
5	4272	下田駅	08:55	09:10	板戸一色	2	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0		
6	4272	下田駅	09:35	09:50	板戸一色	12	0	0	0	0	12	0	0	1	12	0	0	0	0	0		
7	6012	河津駅	08:40	10:10	修善寺駅	2	0	0	0	0	2	0	0	12	0	0	0	4	1	7		
8	4272	下田駅	10:10	10:25	板戸一色	4	0	0	0	0	4	0	0	4	0	4	0	0	0	0		
9	6011	下田駅	09:25	11:25	修善寺駅	16	0	0	0	0	16	0	0	4	12	1	0	0	6	2	7	
10	4471	下田MC	11:08	11:30	板戸一色	4	0	0	0	0	4	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	
11	6012	河津駅	10:40	12:10	修善寺駅	30	0	0	0	0	30	0	0	28	2	0	0	18	10	2	0	
12	4272	下田駅	12:20	12:35	板戸一色	12	0	0	0	0	12	0	0	4	8	12	0	0	0	0	0	
13	6011	下田駅	11:00	13:00	修善寺駅	34	0	0	0	0	34	0	0	15	19	5	4	3	9	2	11	
14	4272	河津駅	11:30	13:00	修善寺駅	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	
15	4471	下田MC	13:08	13:35	板戸一色	14	0	0	0	0	14	0	0	6	8	0	0	6	4	4	0	
16	6012	河津駅	12:45	14:15	修善寺駅	14	0	0	0	0	14	0	0	6	8	0	0	6	4	4	0	
17	4272	下田駅	14:15	14:30	板戸一色	14	0	0	0	2	12	1	2	6	5	14	0	0	0	0	0	
18	4272	下田駅	14:45	15:00	板戸一色	3	0	0	0	0	3	1	0	0	2	3	0	0	0	0	0	
19	6012	河津駅	13:35	15:10	修善寺駅	12	0	0	0	0	12	0	0	8	4	0	0	9	0	3	0	
20	4272	下田駅	15:15	15:30	板戸一色	3	0	0	0	0	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	
21	6012	河津駅	14:10	15:40	修善寺駅	13	0	0	0	0	13	2	0	6	5	0	0	5	4	4	0	
22	6012	河津駅	15:00	16:30	修善寺駅	27	1	5	2	0	19	2	7	8	10	0	0	15	2	10	0	
23	4272	下田駅	16:15	16:30	板戸一色	6	0	0	0	0	6	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	
24	4272	下田駅	16:45	17:00	板戸一色	14	0	0	0	0	14	0	0	8	14	0	0	0	0	0	0	
25	4272	下田駅	17:15	17:30	板戸一色	10	0	0	2	0	8	3	2	2	3	0	0	2	0	8	0	
26	6012	河津駅	16:20	17:50	修善寺駅	6	0	0	0	2	4	1	2	0	3	6	0	0	0	0	0	
27	4272	下田駅	17:55	18:10	板戸一色	11	0	0	0	1	10	3	1	3	4	0	0	5	3	3	0	
28	6012	河津駅	17:05	18:35	修善寺駅	5	0	0	0	1	4	1	1	0	3	5	0	0	0	0	0	
29	4272	下田駅	18:25	18:40	板戸一色	4	0	0	0	3	1	0	3	0	1	4	0	0	0	0	0	
30	4272	下田駅	18:55	19:10	板戸一色	2	0	0	0	0	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	
31	4272	下田駅	19:25	19:40	板戸一色	6	0	0	0	0	6	4	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0
32	4272	下田駅	20:25	20:40	板戸一色	6	0	0	0	0	6	4	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0
合計						283	1	17	12	10	243	19	39	95	130	110	4	3	79	28	59	

下田から修善寺を結ぶ便→下田市との広域な利用はあまり見られない

1) 往路（修善寺 → 天城 → 河津 → 下田駅）



2) 復路（下田駅 → 河津 → 天城 → 修善寺）

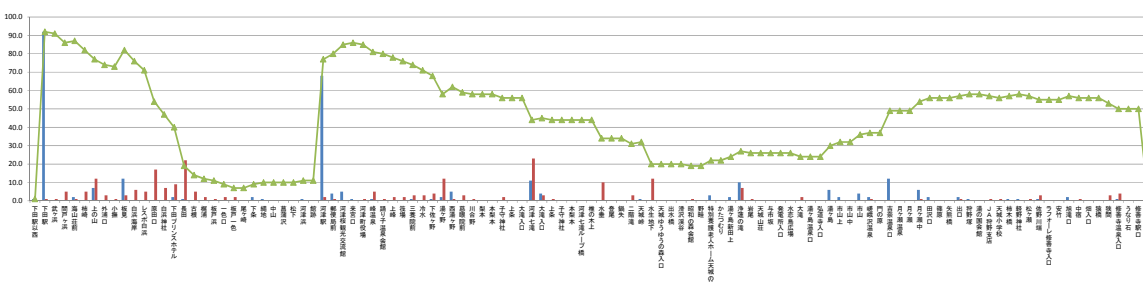


図 59 天城峠線・平日一日の利用状況（下田—修善寺間：1日の便の集計）

(6) 戸田線

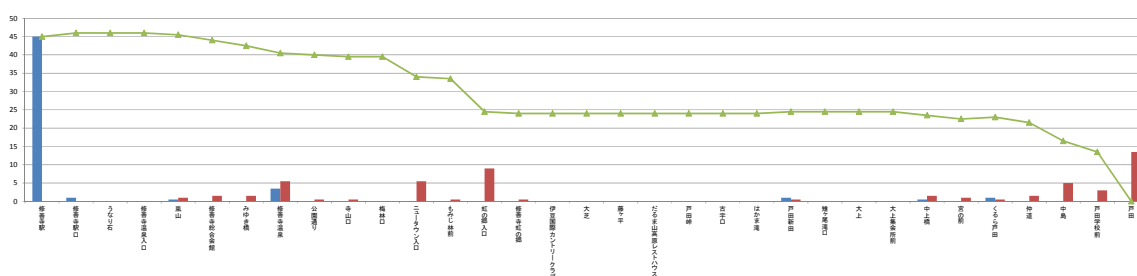
■利用傾向

- ・伊豆市から沼津市戸田地区、伊豆市内の利用が多く、戸田地区内の利用は少ない。
- ・修善寺駅発の便は、日中の時間帯でそれぞれ10人以上の利用があるが、午前の早い便は利用が少ない。
- ・戸田発の便は、6時台が31人など朝の便の利用が多く、主に通学に利用されている。日中の便は観光やその他一般の目的で利用されているが、夕方の便は17時台が3人など利用が少ない。
- ・午前には戸田発、午後は修善寺発の便の利用が多い。午前の修善寺発、午後の戸田発は利用が少なく、市町をまたぐ広域利用は少ない。

表 27 運行便別利用者数（修善寺駅⇒戸田行）

修善寺駅発⇒戸田行										戸田発⇒修善寺駅行										
No.	系統番号	始発		終点		利用者数	市町村間移動			備考	系統番号	始発		終点		利用者数	市町村間移動			備考
		停留所	時刻	時刻	停留所		伊豆市	伊豆市	戸田地区			伊豆市	伊豆市	戸田地区	伊豆市		伊豆市	戸田地区	伊豆市	
1	6142	修善寺駅	07:38	08:26	戸田	5	2	1	2		1	戸田	06:10	06:58	修善寺駅	31	0	15	17	
2	6121	修善寺駅	09:15	10:05	戸田	2	2	0	0		2	戸田	07:20	08:10	伊豆総合高校入口	15	0	15	1	
3	6121	修善寺駅	11:30	12:20	戸田	15	9	6	0		4	戸田	10:00	10:50	修善寺駅	14	1	12	1	
4	6121	修善寺駅	14:20	15:10	戸田	12	2	9	1		5	戸田	12:00	12:50	修善寺駅	10	1	8	1	
5	6121	修善寺駅	15:45	16:35	戸田	12	8	5	0		6	戸田	14:20	15:10	修善寺駅	6	0	1	5	
6	6121	修善寺駅	17:30	18:18	戸田	8	4	4	0	ODデータなし	7	戸田	17:00	17:48	修善寺駅	3	2	0	1	
7	6142	修善寺駅	18:50	19:38	戸田	8	4	4	0		8	戸田	18:30	19:18	修善寺駅	7	4	50	25	ODデータなし
		合計			戸田	53	26	24	3			合計			修善寺駅	78	4	50	25	

1) 往路（修善寺→戸田）



2) 復路（戸田→修善寺）

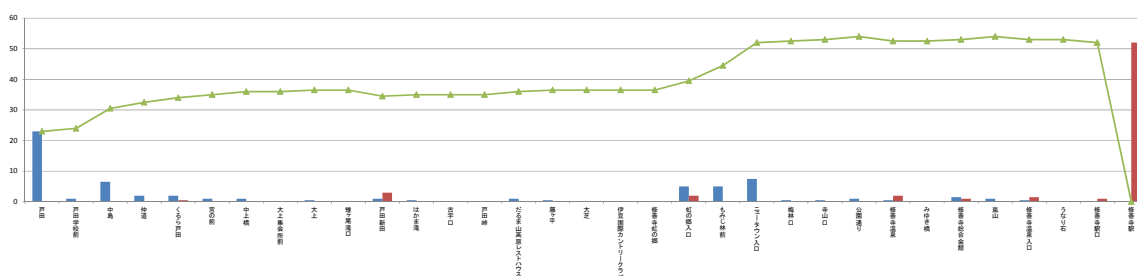


図 60 戸田線・平日一日の利用状況（修善寺—戸田間：1日の便の集計）

(7) 修善寺～伊東線

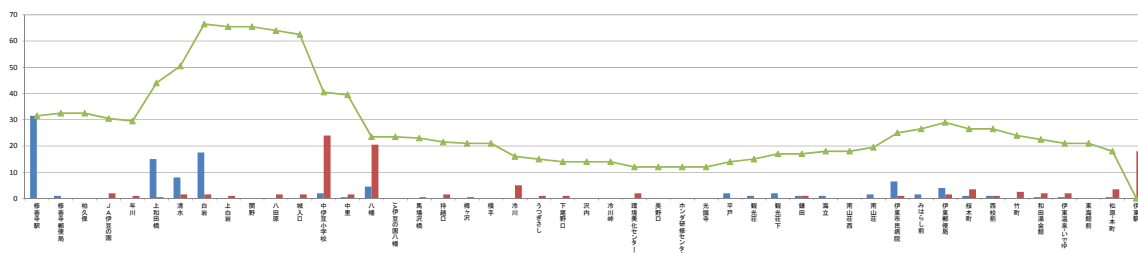
■ 利用傾向

- ・ 修善寺駅発の始発便は、修善寺駅での乗車が多く、中伊豆中学校、八幡、伊東駅での降車が多い。
- ・ 伊東駅発の始発便は、伊東駅と伊東市内の乗車が多く、降車は市民病院、修善寺駅が多い。
- ・ 修善寺駅発の便は、朝の時間帯で利用が多く、伊豆市内の小中学生の利用が主である。
- ・ 伊東駅発の便は、日中の便でも利用が多く、主な利用は一般である。伊東市内での乗降が多いが、伊豆市への利用者もいる。
- ・ 伊東駅発の 17 時台、18 時台の便は、3～4 人と利用者数が少ない。
- ・ 伊東駅発の便は、修善寺駅発の便に比べ利用者数が少ない。夕方便において利用が特に少なく、広域利用も少ないため改善の余地がある。

表 28 運行便別利用者数（伊東駅⇒修善寺駅行）

No.	系統番号	始発		終点		利用者数	旅客種別					旅行目的				市町村間移動			備考
		停留所	時刻	時刻	停留所		幼稚園	小学生	中学生	高校生	一般	通勤	通学	観光	その他一般	伊東市 - 伊東市	伊東市 - 伊豆市	伊豆市 - 伊豆市	
1	6341	伊東駅	07:00	07:55	修善寺	11	0	0	5	6	5	5	0	2	6	4	2	利用が少なく広域利用も少ない	
2	6341	伊東駅	08:10	09:05	修善寺	13	0	0	1	13	4	1	0	9	7	0	7		
3	6341	伊東駅	11:40	12:35	修善寺	9	0	0	0	9	1	0	3	6	5	3	2		
4	6341	伊東駅	13:30	14:25	修善寺	11	2	0	0	10	0	2	4	6	4	6	2		
5	6341	伊東駅	17:05	18:00	修善寺	4	1	0	0	4	2	1	0	2	2	1	1		
6	6341	伊東駅	18:15	19:10	修善寺	3	0	0	0	3	2	0	0	1	1	1	2		
合計						51	0	2	0	6	44	13	8	6	25	24	14	14	

1) 往路（修善寺→伊東）



2) 復路（伊東→修善寺）

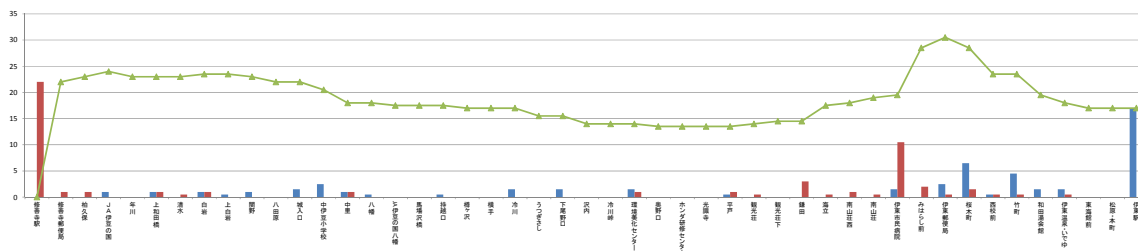


図 61 修善寺～伊東線線・平日一日の利用状況（修善寺—伊東間：1日の便の集計）

4 移動の実態及び意向

(住民アンケート)

(1) 市民・町民移動実態・ニーズ

■ 市町別年齢構成

全体的に 60 歳代、70 歳以上からの回答が多く得られた。

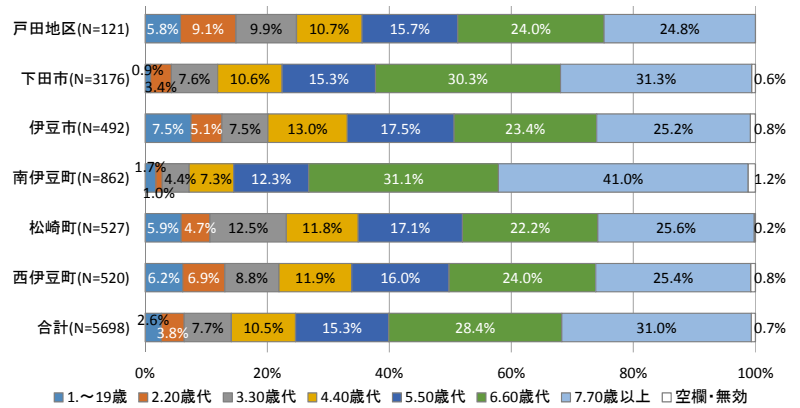


図 62 年齢

■ 市町別職業構成

職業構成は、会社員・公務員、主婦・主夫、無職が多い。学生の割合は少ないが、高校生の実態や意向は高校生アンケート結果にて補完する。

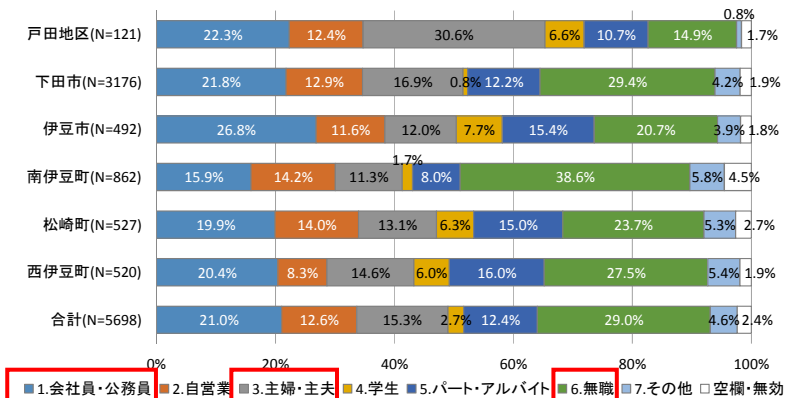


図 63 職業

■ 通勤・通学の傾向

通勤・通学時の交通手段は、いずれの市町も「自動車（自分で運転）」で移動する人が多く、自動車送迎を含めると自動車の利用者は 70%程度である。鉄道で通勤・通学している人は伊豆市が最も多く 10.4%、バスで通学している人は沼津市戸田地区が多く 11.3%である。

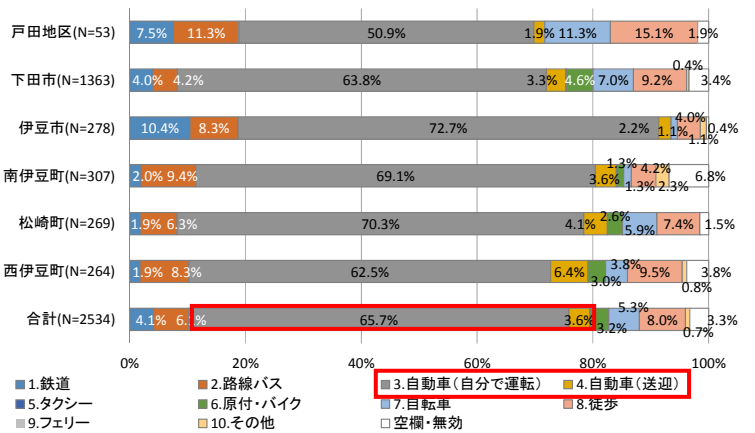


図 64 通勤・通学時の交通手段

■ 買い物の傾向

買い物に行く際の交通手段は、いずれの市町も「自動車（自分で運転）」が最も多い。自動車送迎を含めると自動車の利用者は 70%程度である。

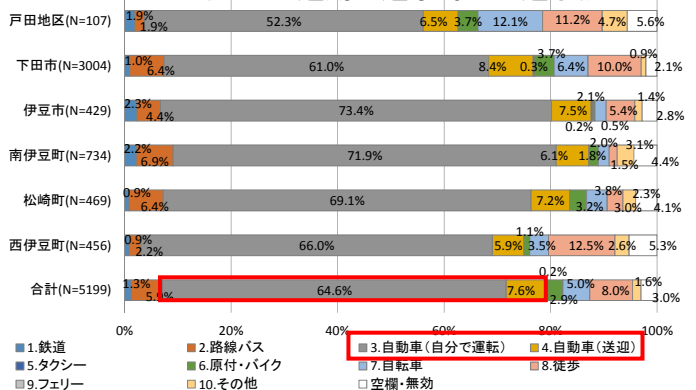


図 65 買い物の際の交通手段

■通院の傾向

通院に行く際の交通手段はいずれの市町も「自動車（自分で運転）」が最も多い。

全体では自動車送迎を含めると自動車の利用者は70%程度である。

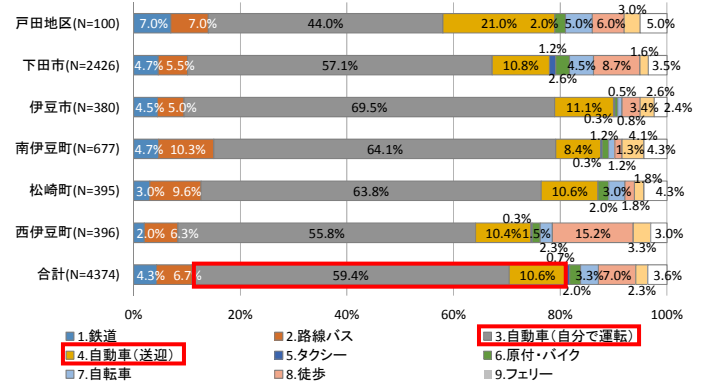


図 66 通院の際の交通手段

■鉄道の利用状況（利用の有無）

鉄道の利用の有無は下田市で「利用する」が59.9%と最も高く、次いで伊豆市が58.3%、最も少ない西伊豆町では35.4%である。

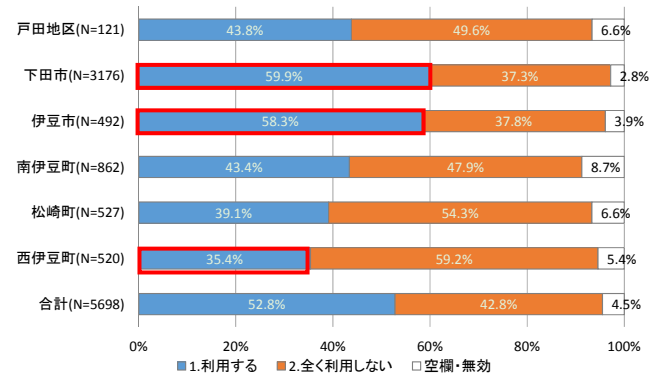


図 67 鉄道の利用の有無

■鉄道の利用状況（利用する駅）

普段利用する駅として伊豆急行線に近い下田市や南伊豆町は「伊豆急下田駅」が最も多く、伊豆箱根鉄道駿豆線に近い伊豆市や沼津市戸田地区は「修善寺駅」が多い。

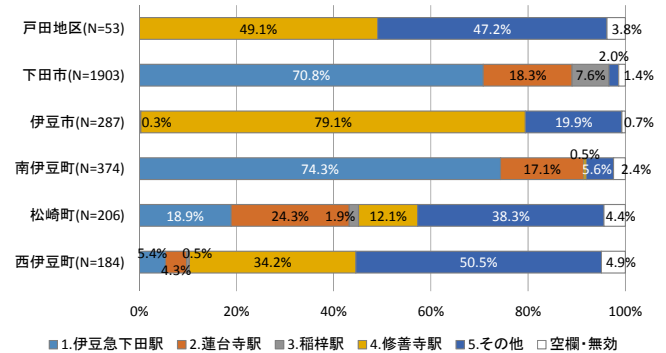


図 68 普段利用する駅名

■路線バスの利用状況（利用の有無）

路線バスの利用の有無は沼津市戸田地区で「利用する」が33.9%と最も高く、次いで伊豆市が30.5%であり、最も少ない松崎町では19.9%である。

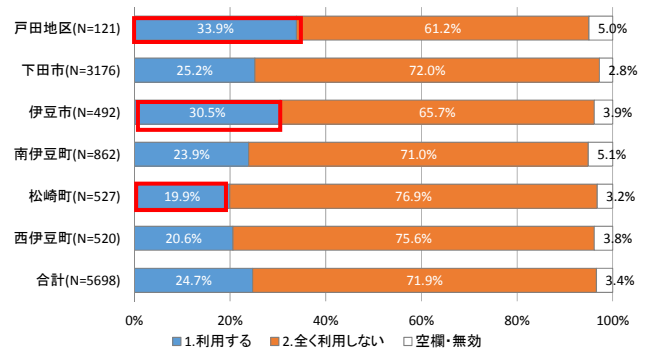


図 69 路線バスの利用の有無

■路線バスの利用状況

(自宅最寄バス停までの徒歩の距離)

自宅の最寄りバス停までの徒歩での所要時間は、いずれの市町でも「5分以内」、「5～10分以内」を合計すると80%程度であり、自宅からバス停が比較的近くにあることが分かる。

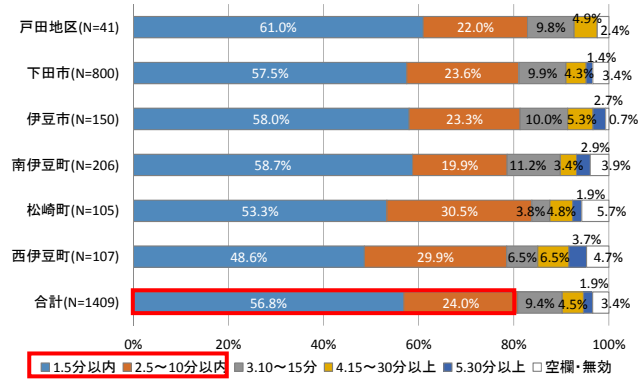


図 70 自宅最寄バス停までの徒歩の距離

■路線バスの利用状況 (バスを利用しない理由)

いずれの市町も「他の交通手段を利用するため必要ない」が最も多く、「運行本数が少ない」「料金が安い」なども多い。

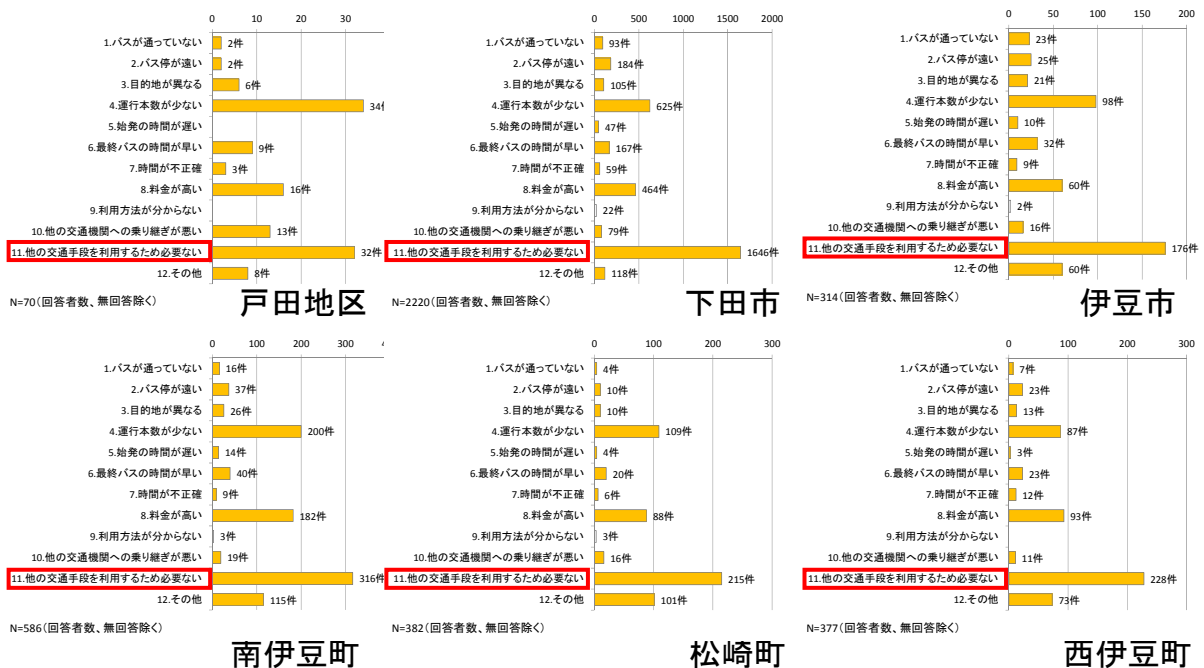


図 71 バスを利用しない理由

■鉄道の利用状況

鉄道を利用する割合は、駅が立地する伊豆市や下田市において高い。
 鉄道から遠い西伊豆町や松崎町では、利用する割合が低い。

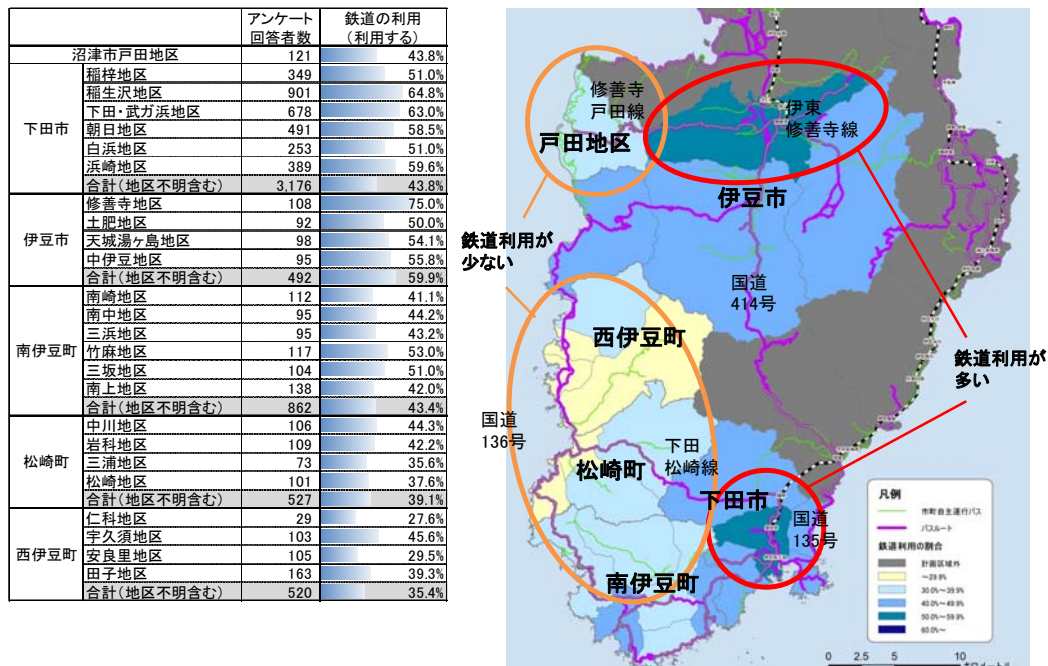


図 72 鉄道の利用状況

■バスの利用状況

路線バスを利用する割合は、天城湯ヶ島地区（伊豆市）、白浜地区（下田市）において比較的高い。仁科地区(西伊豆町)、岩科地区・松崎地区（松崎町）、下田地区、稲梓地区（下田市）などにおいて利用する割合が比較的低い。これらの地区において利用する割合が低い要因は、バス路線がない又は運行本数が他地区に比べ少ない、又はまちの中心部で比較的便利でありバスを利用する必要がないことによるものと考えられる。

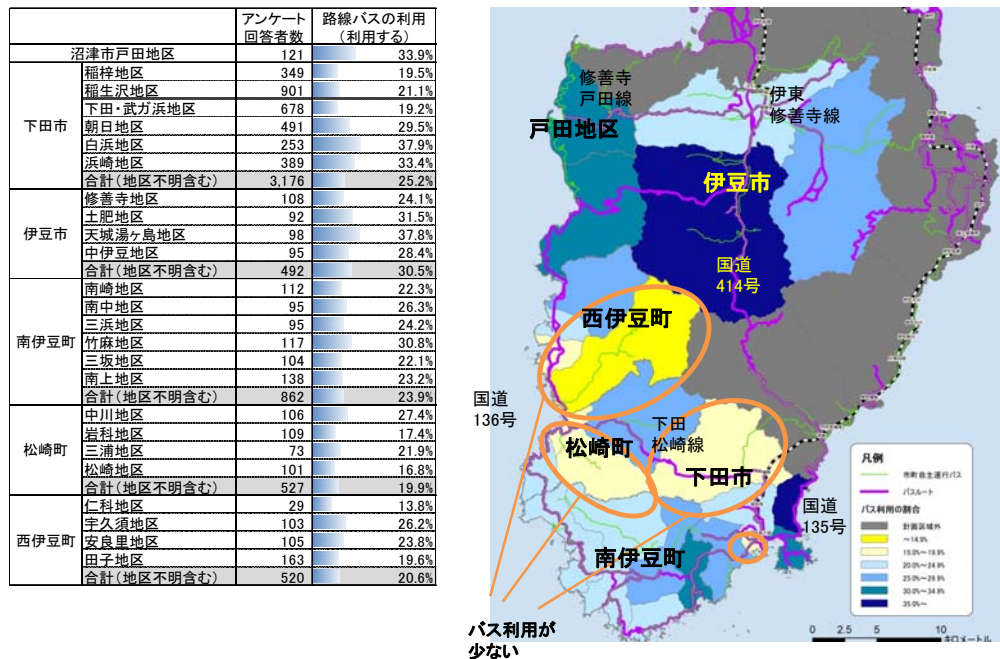


図 73 バスの利用状況

■バス利用者の自宅最寄バス停までの所要時間

バス利用者の自宅からバス停までの距離は、10分以内が各地区において70～90%程度である。

三浜地区・竹麻地区（南伊豆町）、宇久須地区（西伊豆町）において、10分以内の利用者の割合が低い。

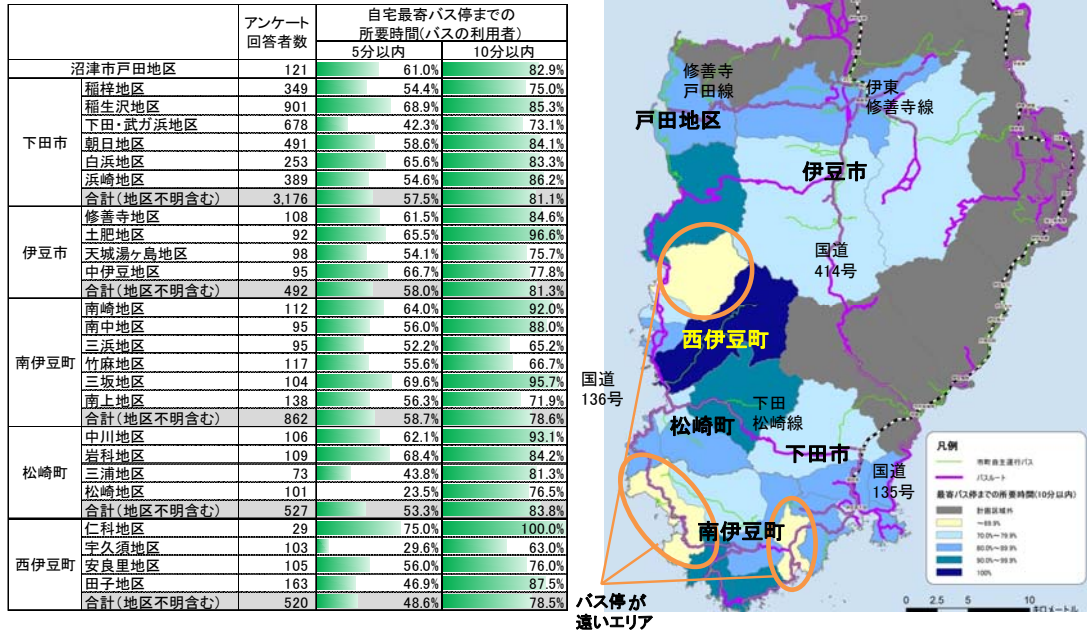


図 74 バス利用者の自宅最寄バス停までの所要時間

■タクシーの利用状況（利用の有無）

タクシーの利用については、いずれの市町も「全く利用しない」の割合が高いが、市町別に見ると、伊豆市や南伊豆町で利用する割合が比較的高い。

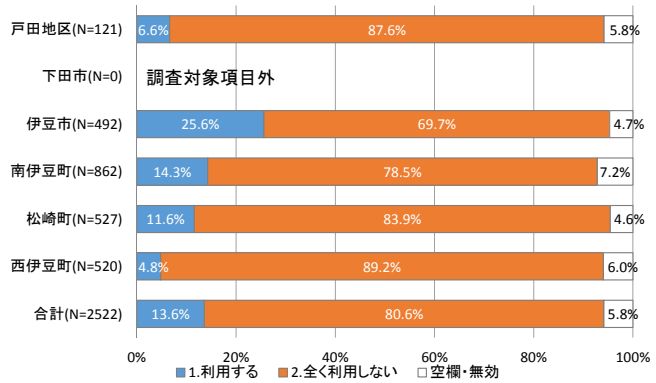


図 75 タクシーの利用の有無

■タクシーの利用状況（利用する理由）

タクシーを利用する理由について、「家などに直接迎えに来てくれる、あるいは、目的地まで直接行くことができる」との割合が最も高い。西伊豆町では「他に交通手段がない」との割合が最も高い。

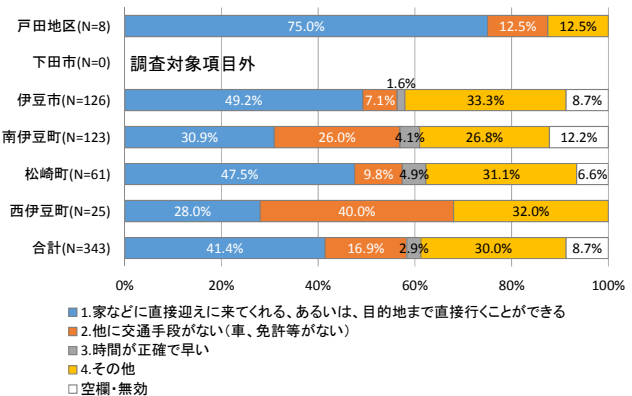


図 76 タクシーを利用する理由

■タクシーの利用状況

沼津市戸田地区、西伊豆町、三浜地区（南伊豆町）においてタクシーの利用割合が低い。修善寺地区、中伊豆地区（伊豆市）は「利用する」の割合が30%を超えている。

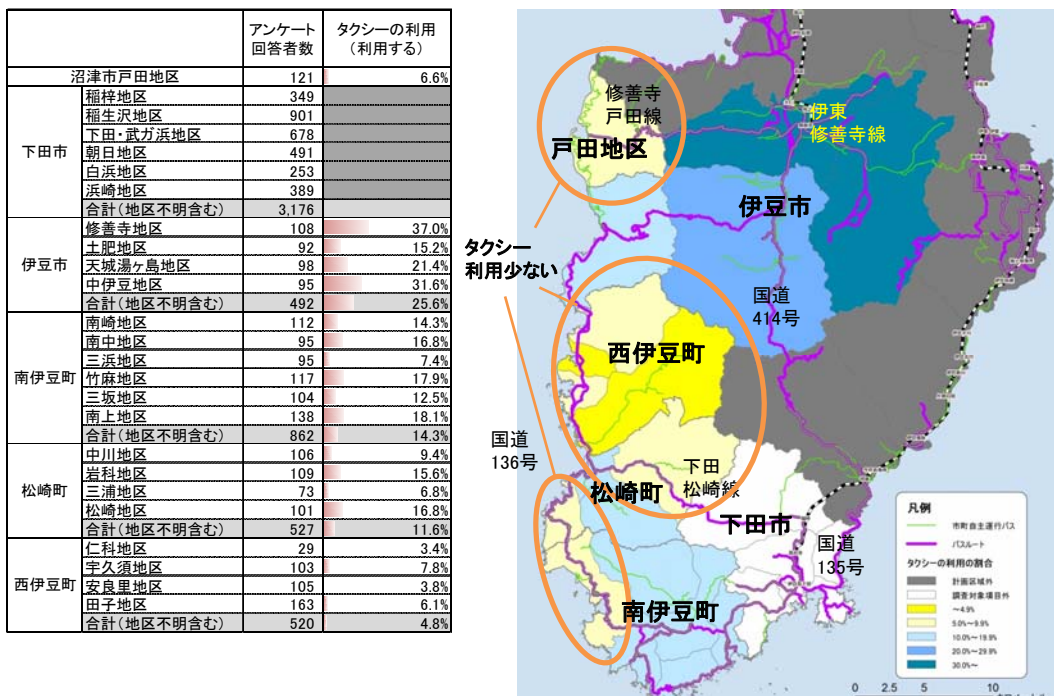


図 77 タクシーの利用状況

■駿河湾フェリーの利用状況

駿河湾フェリーの利用については、いずれの市町も「全く利用しない」の割合が最も高く、70~90%程度である。

市町別に見ると、フェリー乗り場が近い西伊豆町や松崎町で利用する割合が比較的高い。

フェリーの利用頻度はいずれの市町も「年に数回」の割合が最も高く、全ての市町で90%程度である。

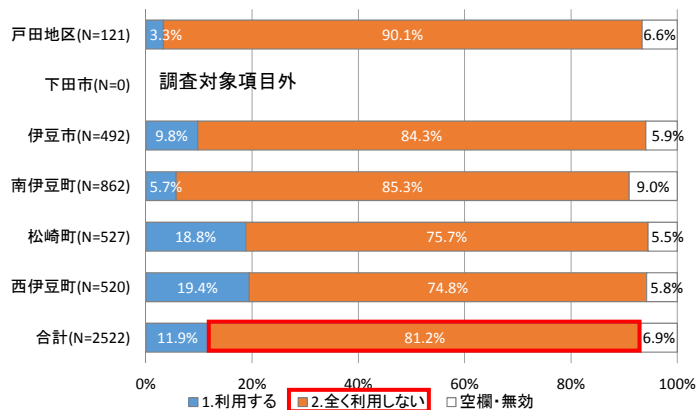


図 78 駿河湾フェリーの利用有無

■フェリーの利用状況（フェリーを利用しない理由）

「フェリーを利用するような移動目的がない」が最も多く、次いで「他の交通手段を利用するため必要がない」「近くにフェリーが運行していない」が多い。フェリー乗り場に近い西伊豆町、松崎町では、他市町に比べ「料金が安い」との回答が多い。

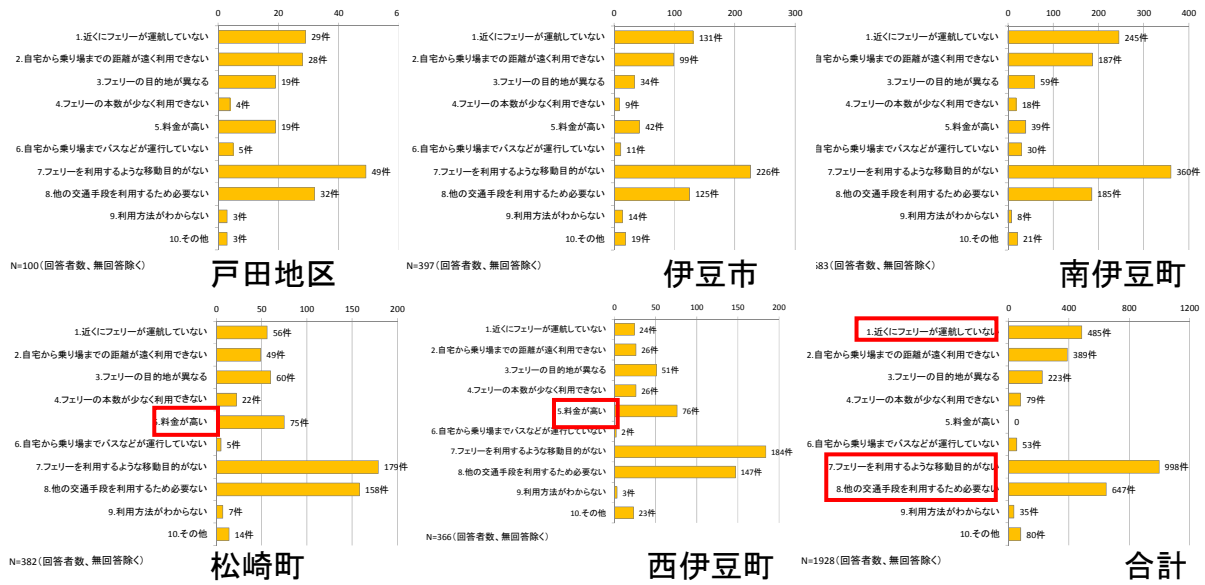


図 79 駿河湾フェリーを利用しない理由

■伊豆半島内にフェリーがあった場合の利用の有無

利用したいと思うが全体の 20%程度であり、松崎町、南伊豆町において割合が高い。

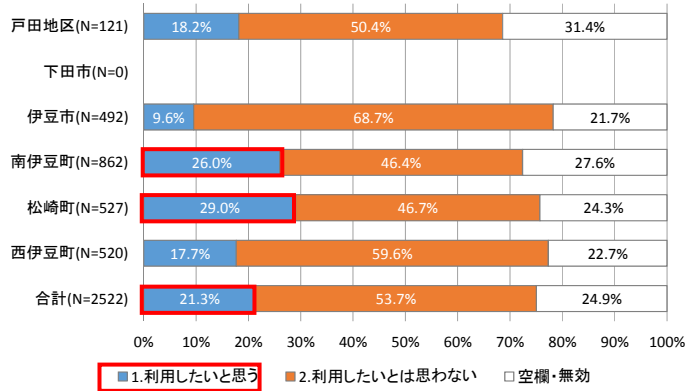


図 80 伊豆半島内にフェリーがあった場合の利用の有無

■伊豆半島内にフェリーがあった場合の利用したい経路

沼津港と松崎港、下田港、戸田港を結ぶ経路を利用したいとの回答が多い。また、清水港と下田港、松崎港、熱海港と下田港を結ぶ経路を利用したいとの回答も多い。

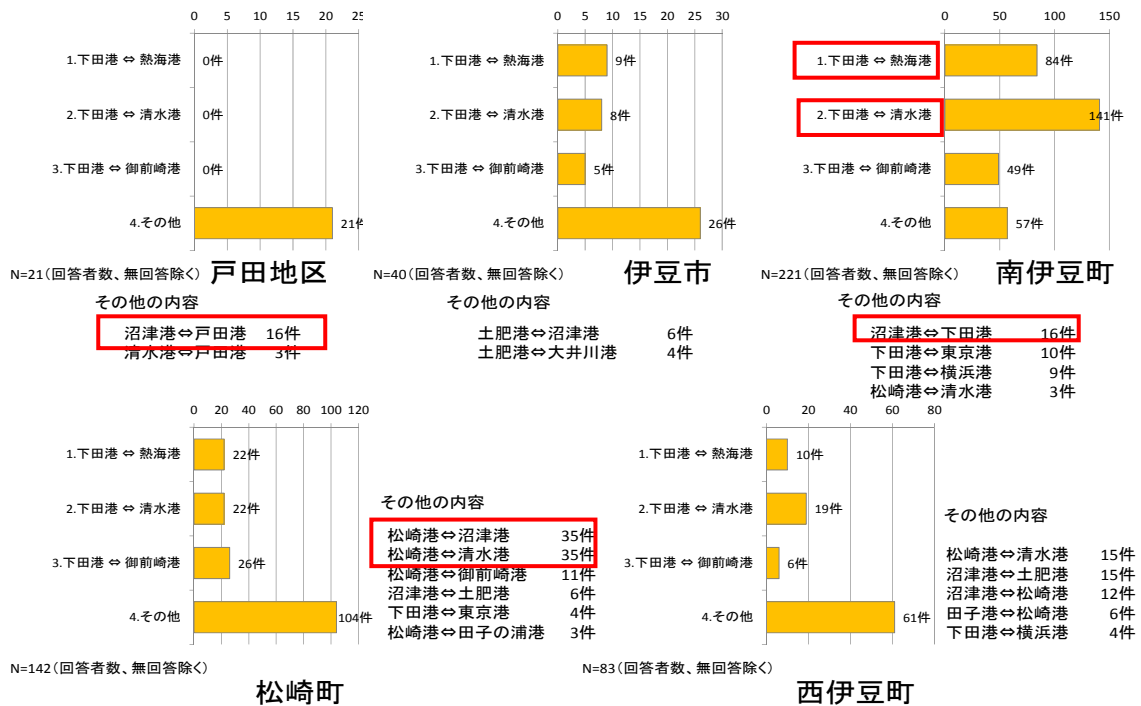


図 81 利用したいフェリーの経路

■フェリーの利用状況

土肥港に近い土肥地区（伊豆市）、仁科地区・宇久須地区・安良里地区（西伊豆町）、松崎地区（松崎町）において「フェリーを利用する」の割合が20%を超えており比較的高い。

地区	アンケート回答者数	駿河湾フェリーの利用(利用する)	
沼津市戸田地区	121	3.3%	
下田市	稲持地区	349	
	稲生沢地区	901	
	下田・武力浜地区	678	
	朝日地区	491	
	白浜地区	253	
	浜崎地区	389	
	合計(地区不明含む)	3,176	
伊豆市	修善寺地区	108	1.9%
	土肥地区	92	31.5%
	天城湯ヶ島地区	98	6.1%
	中伊豆地区	95	4.2%
	合計(地区不明含む)	492	9.8%
南伊豆町	南崎地区	112	4.5%
	南中地区	95	4.2%
	三浜地区	95	13.7%
	竹麻地区	117	1.7%
	三坂地区	104	5.8%
南上地区	138	5.8%	
合計(地区不明含む)	862	5.7%	
松崎町	中川地区	106	17.0%
	岩科地区	109	19.3%
	三浦地区	73	16.4%
	松崎地区	101	23.8%
	合計(地区不明含む)	527	18.8%
西伊豆町	仁科地区	29	24.1%
	宇久須地区	103	21.4%
	安良里地区	105	21.0%
	田子地区	163	17.2%
合計(地区不明含む)	520	19.4%	

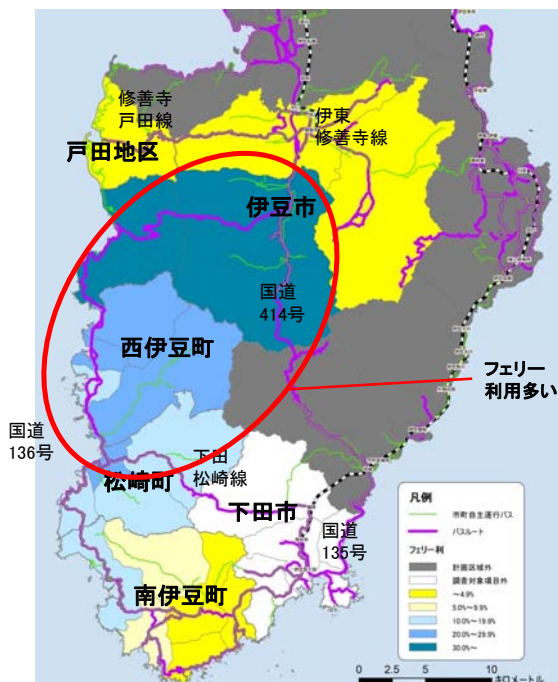
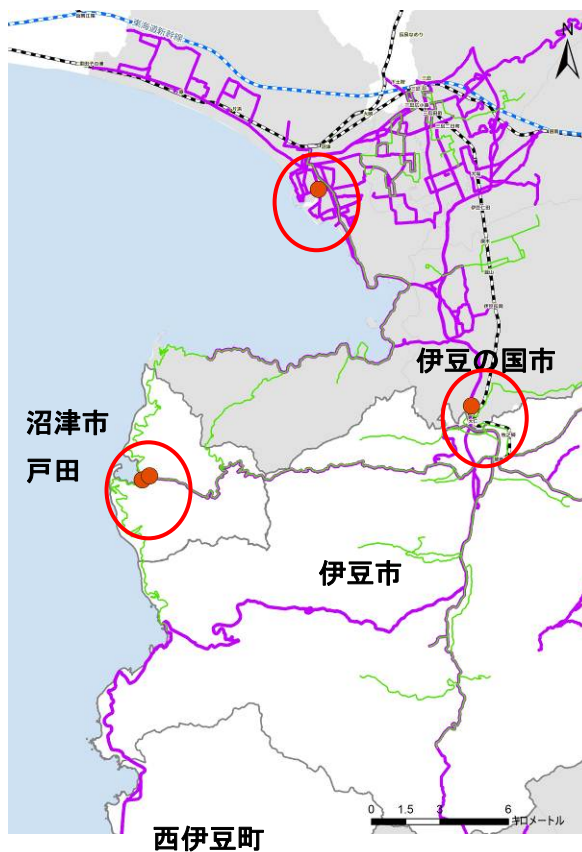


図 82 駿河湾フェリーの利用状況

■買い物の行き先（沼津市戸田地区）

沼津市における買い物の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

戸田地区内の施設のほか、伊豆の国市の施設を利用すると回答した割合が10%以上あるなど、地区外の施設への買い物も見受けられる。



■買い物の行き先（下田市）

下田市における買い物の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

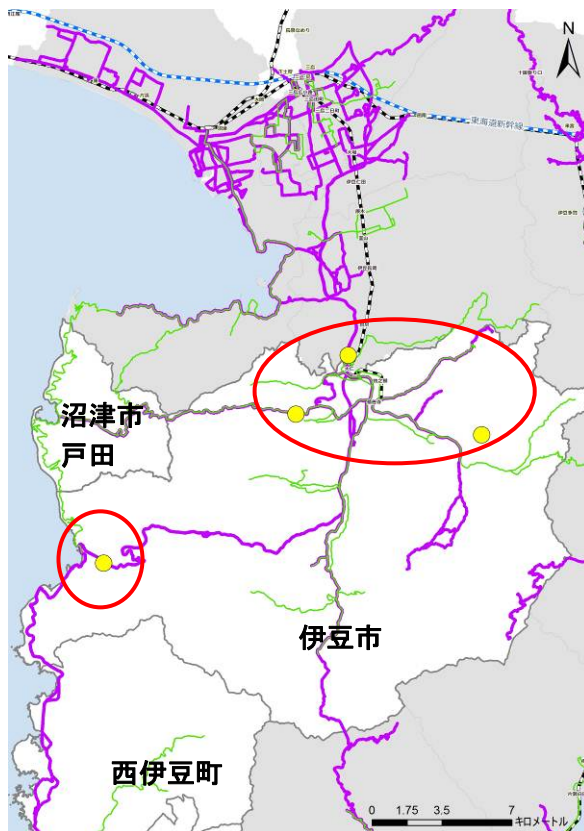
主な買い物の行き先として、下田市中心部に立地する施設の利用が多い。



■買い物の行き先（伊豆市）

伊豆市における買い物の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

主な買い物の行き先として、伊豆市内の施設が多いが、伊豆の国市の施設を利用すると回答した割合が10%以上あるなど、地区外の施設への買い物も見受けられる。



■買い物の行き先（南伊豆町）

南伊豆町における買い物の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

主な買い物の行き先として、下賀茂に立地する施設を利用するという回答が、他の施設に比べて極めて多い。



■買い物の行き先（松崎町）

松崎町における買い物の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

主な買い物の行き先として松崎町中心部に立地する施設で買い物すると回答した割合が7割以上と、他の施設に比べて極めて多い。



■買い物の行き先（西伊豆町）

西伊豆町における買い物の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

主な買い物の行き先として、西伊豆町の中心部に立地する施設に加え、松崎町の中心部に位置する施設の利用が多く、両施設で全体の半数以上を占めている。

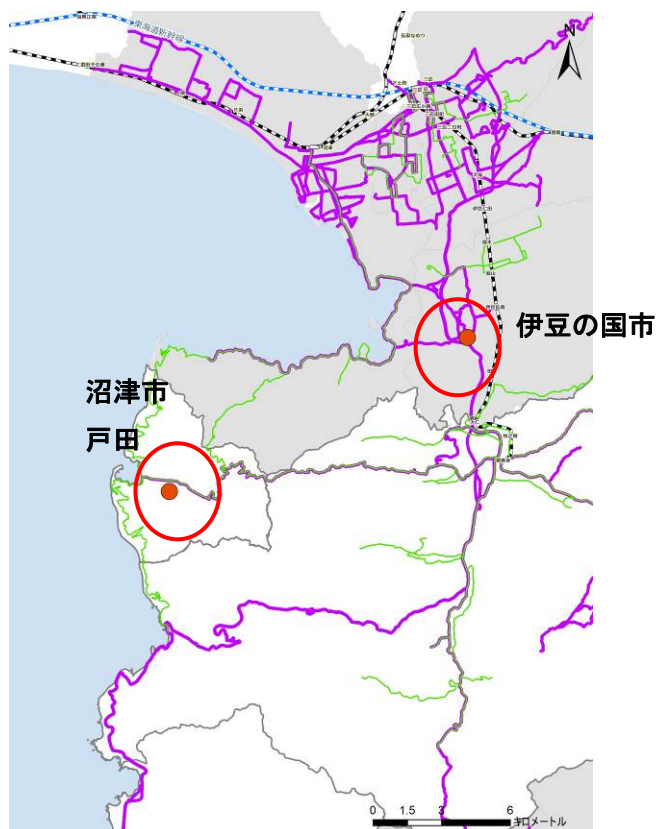


■通院の行き先（沼津市戸田地区）

沼津市戸田地区における通院の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

戸田地区の診療所の利用が最も多いほか、伊豆の国市の順天堂大学附属静岡病院の利用が8%ある。

しかし、戸田地区から順天堂大学附属静岡病院への通院は、バス、鉄道の乗継ぎが複数回必要である。



■通院の行き先（下田市）

下田市における通院の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

下田市に立地する医療機関を利用する割合が高く、下田市民は市内の施設を中心に通院していることが確認された。

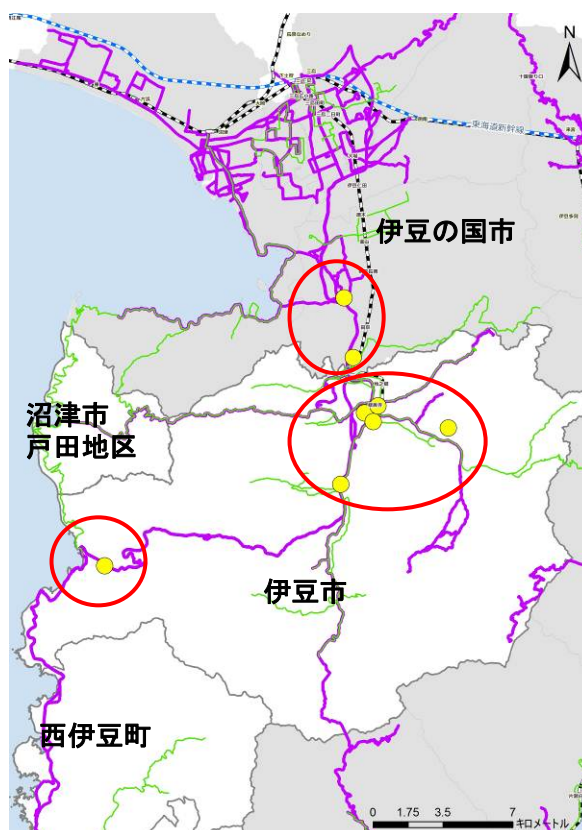
中心部へアクセスするバス路線はあるが、利用する地域によっては、乗継ぎが必要になる。



■通院の行き先（伊豆市）

伊豆市における通院の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

伊豆市からは、順天堂大学附属静岡病院を利用すると回答した割合が12.9%と最も高かった。その他は、伊豆市内の施設を利用している。



■通院の行き先（南伊豆町）

南伊豆町における通院の行き先施設で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

南伊豆町では、町内の医療機関のほか、下田市に立地する施設に17%、河津町に立地する施設に8%の利用意向があり、市町の境を越えて広域で通院している実態が確認された。

また、南伊豆町から順天堂大学附属静岡病院への通院も6%確認され、伊豆半島における高次医療機関への通院手段の確保の必要性が確認された。



■通院の行き先（松崎町）

松崎町における通院の行き先施設で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

松崎町、西伊豆町の西海岸線沿いの医院の利用が多いが、順天堂大学附属静岡病院の利用も6%ある。

しかし、順天堂大学附属静岡病院を利用するためには、バスに朝早く乗車して乗り継ぐ必要がある。



■通院の行き先（西伊豆町）

松崎町における通院の行き先で、住民の5%以上が利用すると回答している施設を図に示す。

西海岸線沿いの診療所、病院の利用が多いほか、伊豆の国市の順天堂大学附属静岡病院の利用も5%ある。しかし、順天堂大学附属静岡病院を利用するためには、バスに朝早く乗車して乗り継ぐ必要がある。



■公共交通に対する満足度

公共交通に対する満足度については、バス利用者の「不満、やや不満」の割合が、戸田地区で50%以上、南伊豆町と松崎町で40%以上と高い。

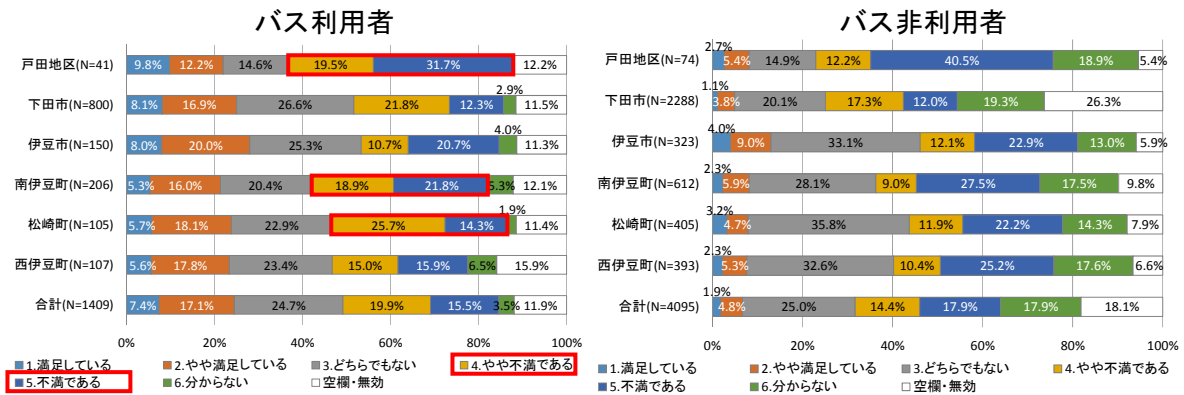


図 83 公共交通に対する満足度

■公共交通に対する満足度

「満足、やや満足」の割合については、稲梓地区・浜崎地区（下田市）、宇久須地区（西伊豆町）、松崎地区（松崎町）、南上地区（南伊豆町）において10%台と低い。

稲梓地区、宇久須地区は、公共交通のカバーがされていない地区を有することから満足度が低いと考えられる。

また、松崎地区は、松崎町の中心部であり多くのバス路線が集まる地区であるが、運行本数が少ない区間や、一部カバーされていない地区が一部にあるためと考えられる。

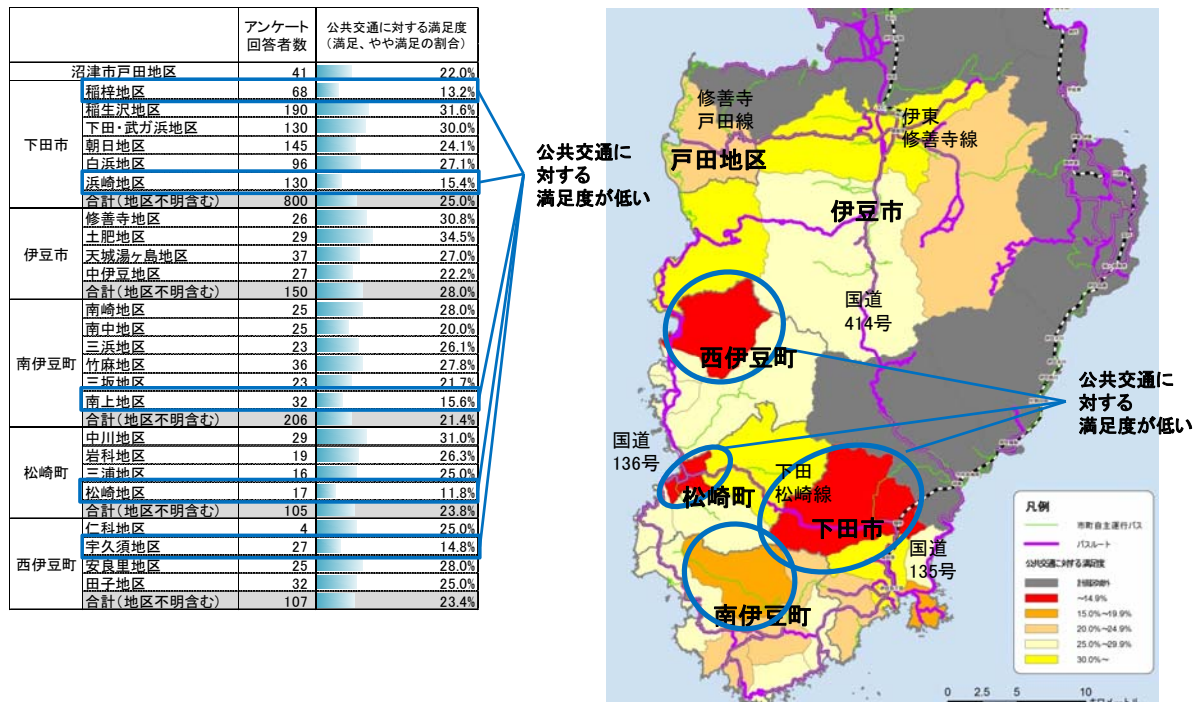


図 84 公共交通に対する満足度

■通勤・通学先の移動についての満足度

通勤・通学先への移動の満足度については、「不満、やや不満」の割合、「将来に不安がある」の割合ともに、沼津市戸田地区で高い。

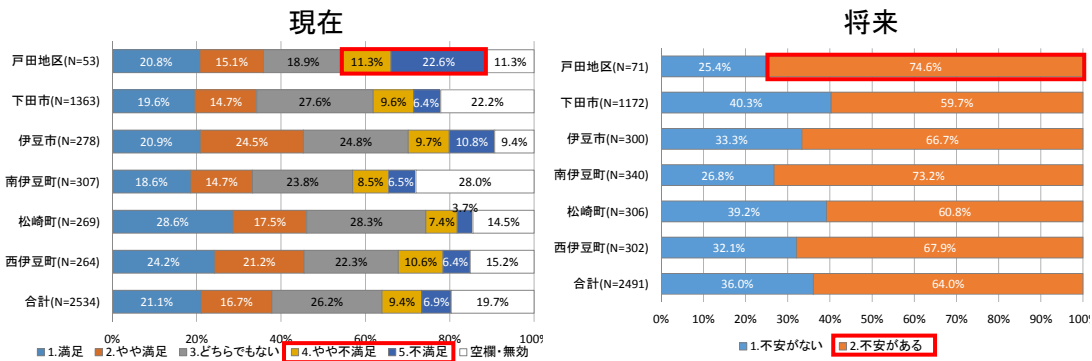


図 85 通勤・通学先への移動の満足度

■通勤・通学先への移動の満足度

「満足、やや満足」の割合については、三坂地区（南伊豆町）が 16.2%と最も低く、次いで白浜地区（下田市）が 20.4%と低い。

全体的には、南伊豆町、下田市において低い傾向にある。

	アンケート回答者数	通勤・通学先への移動 (満足、やや満足の割合)	
沼津市戸田地区	53	35.8%	
下田市	稲穂地区	121	26.4%
	稲生沢地区	428	38.8%
	下田・武力浜地区	282	41.1%
	朝日地区	224	28.6%
	白浜地区	103	20.4%
	浜崎地区	174	36.2%
合計(地区不明含む)	1363	34.3%	
伊豆市	修善寺地区	72	62.5%
	土肥地区	45	31.1%
	天城湯ヶ島地区	51	51.0%
	中伊豆地区	49	36.7%
合計(地区不明含む)	278	45.3%	
南伊豆町	南崎地区	45	37.8%
	南中地区	32	34.4%
	三浜地区	27	29.6%
	竹麻地区	45	37.8%
	三坂地区	37	16.2%
	南上地区	40	45.0%
合計(地区不明含む)	307	33.2%	
松崎町	中川地区	51	47.1%
	岩科地区	52	46.2%
	三浦地区	29	41.4%
	松崎地区	54	61.1%
合計(地区不明含む)	269	46.1%	
西伊豆町	仁科地区	15	40.0%
	宇久須地区	47	44.7%
	安良里地区	48	58.3%
	田子地区	84	44.0%
合計(地区不明含む)	264	45.5%	

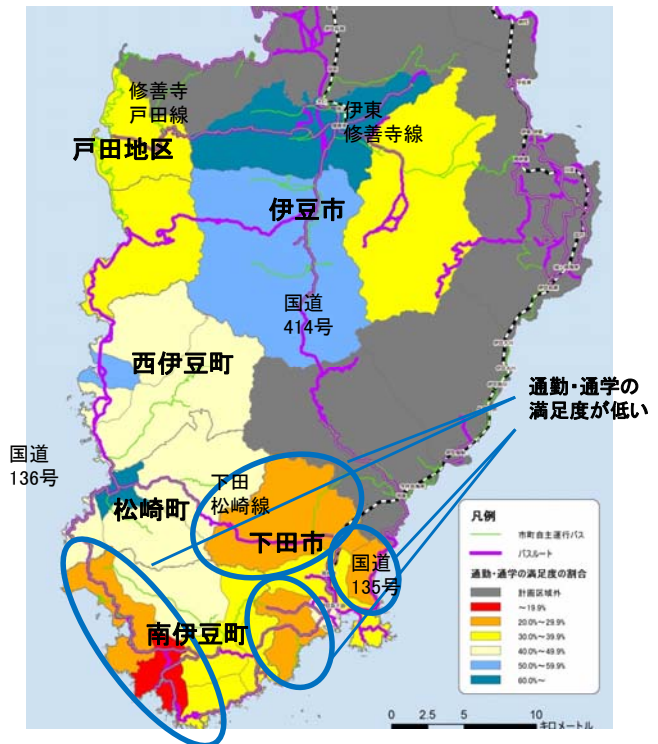


図 86 通勤・通学先への移動の満足度

■ 買い物時の移動についての満足度（食料品など日常的に行う買い物）

買い物時の移動の満足度（食料品など）については、「不満足、やや不満足」の割合は、沼津市戸田地区で高く、将来の不安の割合は沼津市戸田地区、南伊豆町で高い。

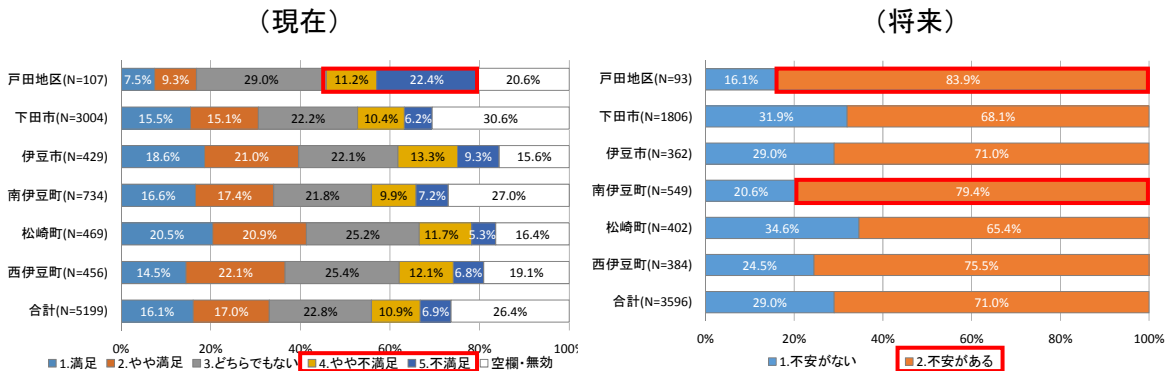


図 87 買い物先への移動の満足度（食料品など日常的な買い物）

■ 買い物先への移動（食料品など）の満足度

「満足、やや満足」の割合については、沼津市戸田地区で16.8%と最も低く、次いで稲梓地区（下田市）が20.3%と低い。

また、白浜地区・浜崎地区、朝日地区（下田市）、宇久須地区（西伊豆町）、三浦地区（松崎町）で低い。

沼津市戸田地区で低い要因は、地区外の買い物施設への行きづらさによるものと考えられる。稲梓地区（下田市）で低い要因は、公共交通が整備されていないためと考えられる。

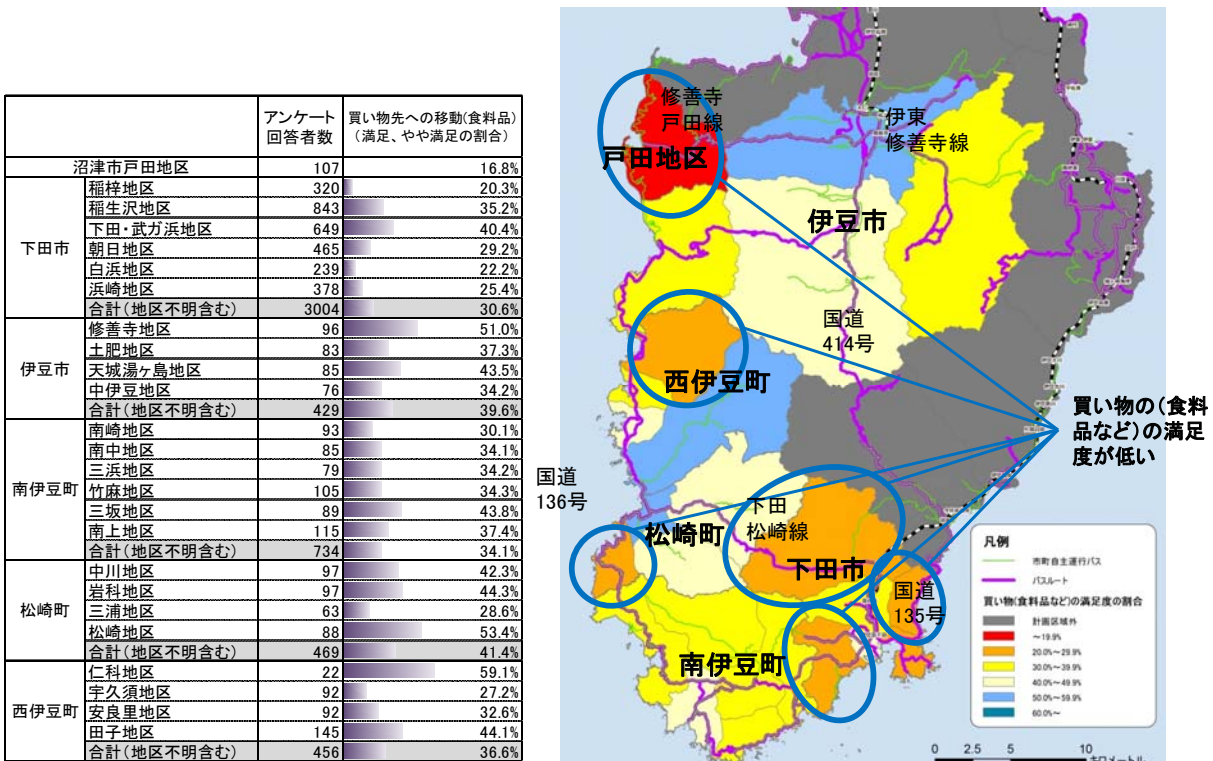


図 88 買い物先への移動の満足度（食料品など日常的な買い物）

■ 買い物時の移動についての満足度（衣料品など主に休日に行う買い物）

買い物時の移動の満足度（衣料品など）については、「不満足、やや不満足」の割合は、沼津市戸田地区で高く、「将来に不安がある」の割合は、沼津市戸田地区、南伊豆町、西伊豆町で高い。

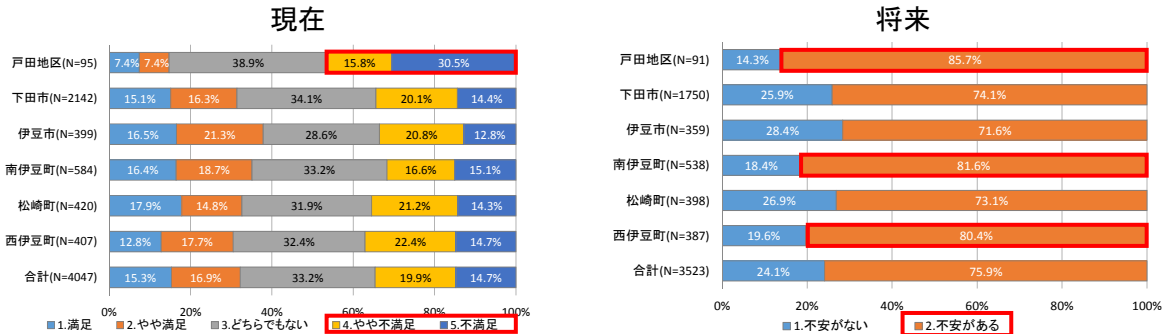


図 89 買い物先への移動の満足度（衣料品など休日に行う買い物）

■ 買い物先への移動（衣料品など）の満足度

「満足、やや満足」の割合については、沼津市戸田地区で 14.7%と特に低く、次いで宇久須地区（西伊豆町）が 20.9%で低い。

また、三浦地区（松崎町）、白浜地区・稲梓地区、浜崎地区、朝日地区（下田市）、土肥地区（伊豆市）、竹麻地区（南伊豆町）、においても低い。

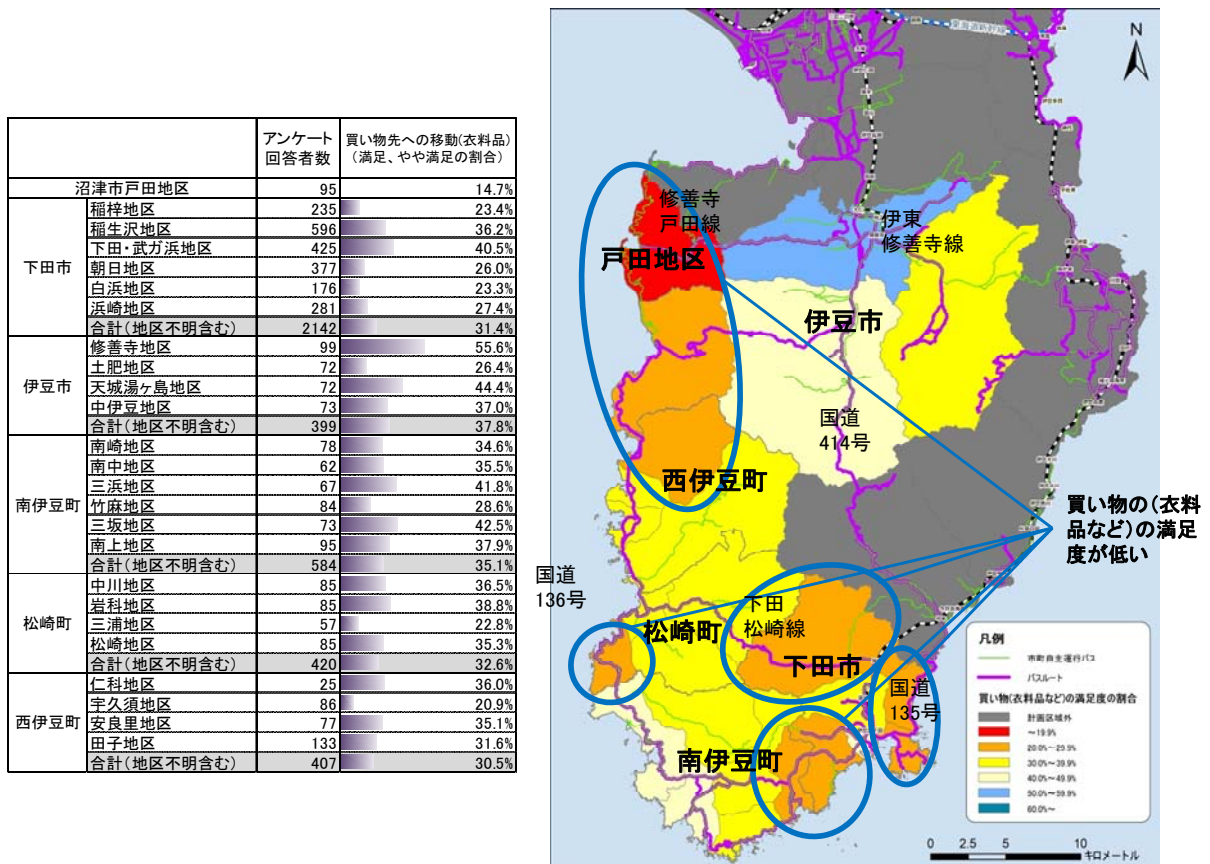


図 90 買い物先への移動の満足度（衣料品など休日の買い物）

■ 医療機関への移動についての満足度

医療機関への移動に関する満足度については、「不満足、やや不満足」の割合が、沼津市戸田地区で高く、「将来に不安がある」の割合は、沼津市戸田地区、南伊豆町、西伊豆町で高い。

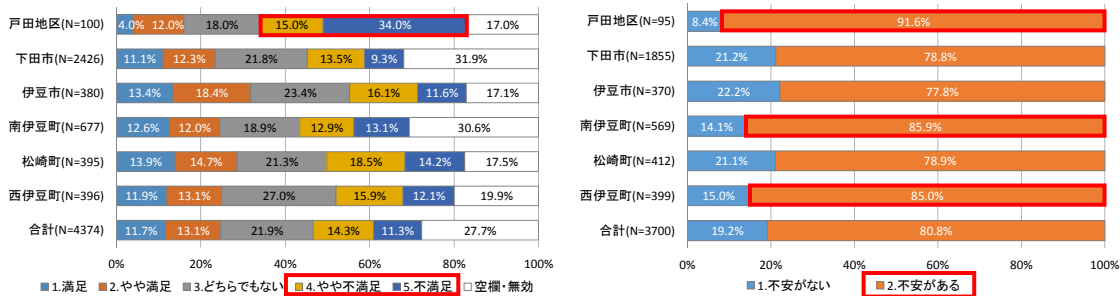


図 91 医療機関への移動の満足度

■ 医療機関への移動の満足度

「満足、やや満足」の割合については、沼津市戸田地区が 16.0% で低く、次いで稲梓地区（下田市）、竹麻地区（南伊豆町）、修善寺地区（伊豆市）、宇久須地区（西伊豆町）で低い。

沼津市戸田地区で低い要因は、順天堂大学附属静岡病院など地区外への移動のしにくさによるものと考えられる。西伊豆町宇久須地区、下田市稲梓地区で低い要因は、公共交通がカバーされていない地区の存在によるものと考えられる。

伊豆市修善寺地区は、公共交通のサービスは他に比べ高いが、エリアによっては順天堂大学附属静岡病院に直接行けないなどの課題があるためと考えられる。

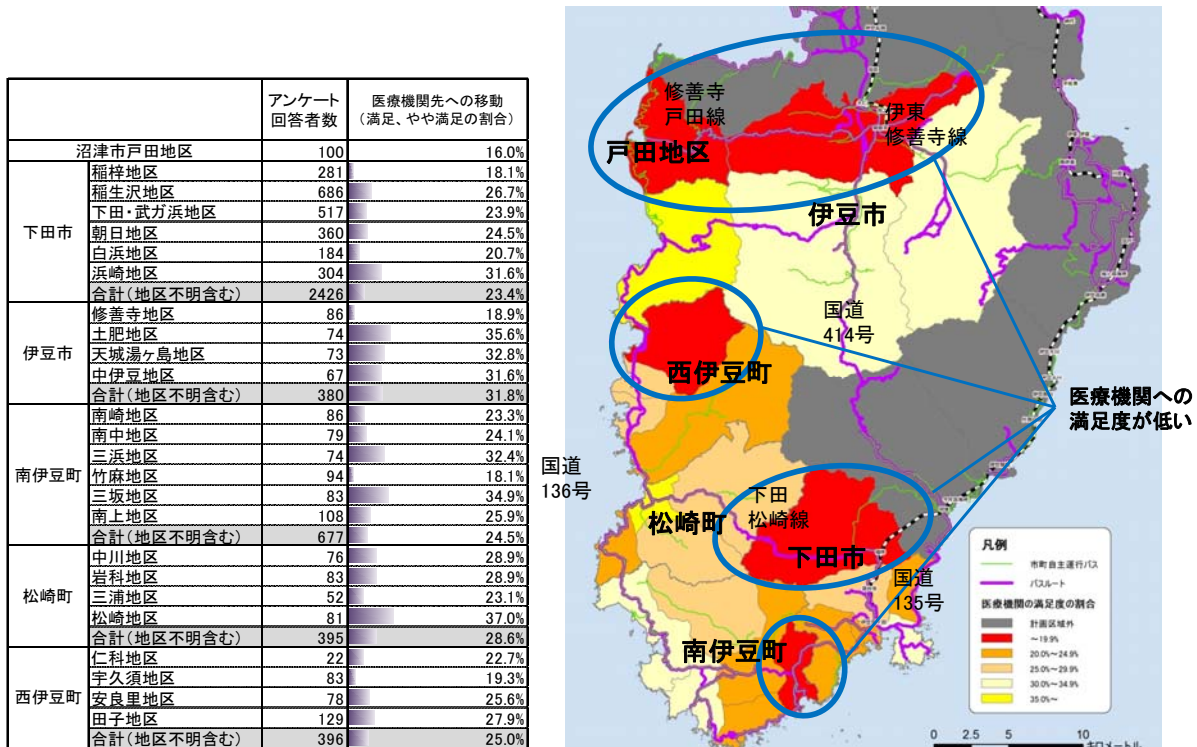


図 92 医療機関への移動の満足度

■利用促進のために必要なこと

「運賃を値下げする」、「運行ダイヤを行き、帰りに利用しやすい時間にする」、「移動のニーズに応じて新たなバスルートを設定する」などの回答が多い。

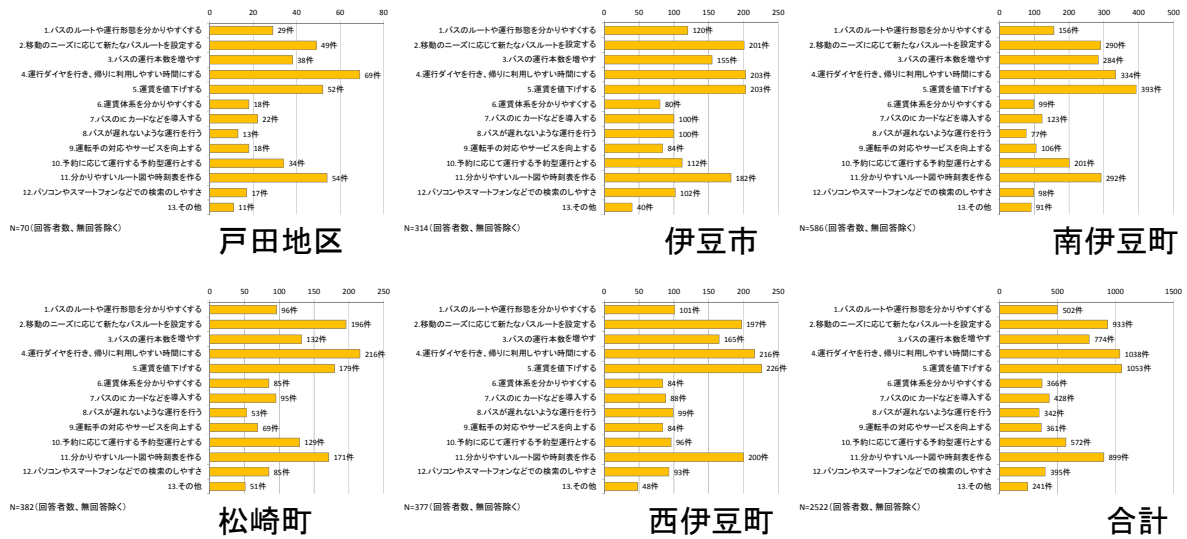


図 93 利用促進のために必要なこと

■改善された場合の意向

公共交通が改善された場合の利用意向としてはいずれの市町も「できる限り利用したいと思う」が最も多く、改善による利用促進の可能性が確認できる。

一方で、「あまり利用したいと思わない」と回答した人の割合が、いずれの市町においても 10~20%程度あった。

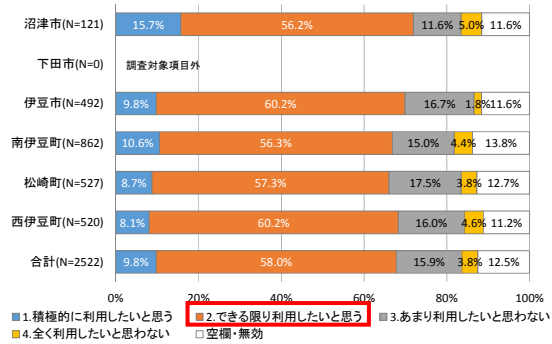


図 94 改善された場合の意向

■改善された場合の意向（地域別比較）

仁科地区（西伊豆町）、修善寺地区、土肥地区（伊豆市）で利用意向の割合が比較的高い。

仁科地区はバス利用は少ないが改善後の利用意向が高く、改善において住民協働により利用促進を図ることが期待できる。

市町	地区	アンケート回答者数	公共交通が改善された場合の利用意向(積極的に利用したい、利用したい)
下田市	沼津市戸田地区	121	72.7%
	稲桂地区	349	
	稲生沢地区	901	
	下田・武力浜地区	678	
	朝日地区	491	
伊豆市	白浜地区	253	
	浜崎地区	389	
	合計(地区不明含む)	3,176	
	修善寺地区	108	75.0%
	土肥地区	92	76.1%
南伊豆町	天城湯ヶ島地区	98	63.3%
	中伊豆地区	95	65.3%
	合計(地区不明含む)	492	69.9%
	南崎地区	112	67.9%
	南中地区	95	70.5%
松崎町	三浜地区	95	58.9%
	竹麻地区	117	67.5%
	三坂地区	104	65.4%
	南上地区	138	71.7%
	合計(地区不明含む)	862	67.2%
西伊豆町	中川地区	106	67.0%
	岩科地区	109	73.4%
	三浦地区	73	69.9%
	松崎地区	101	58.4%
	合計(地区不明含む)	527	66.4%
伊豆市	仁科地区	29	86.2%
	宇久須地区	103	71.8%
	安良里地区	105	62.9%
	田子地区	163	67.5%
	合計(地区不明含む)	520	68.3%

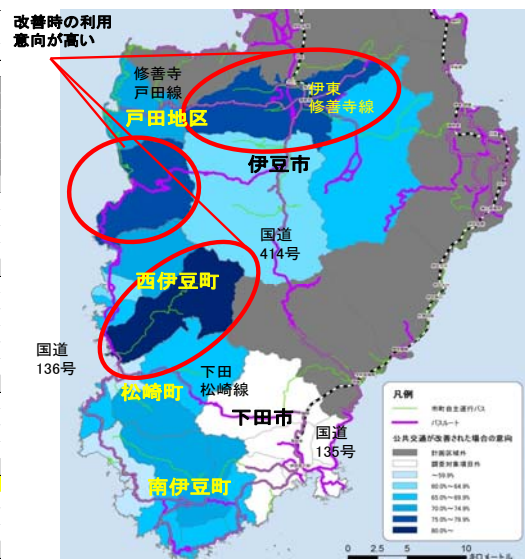


図 95 改善された場合の意向

■新しい公共交通の形の意向

乗継ぎ待ちについては、70～80%程度の方が待つて良いと回答している。

乗継ぎ待ち時間の許容時間を10分以内と回答した人が約半数であり、30分以上待つて良いと回答した人はほとんどいない。

このため、結節点における乗継ぎによるバス路線網の効率化の可能性が確認できた。

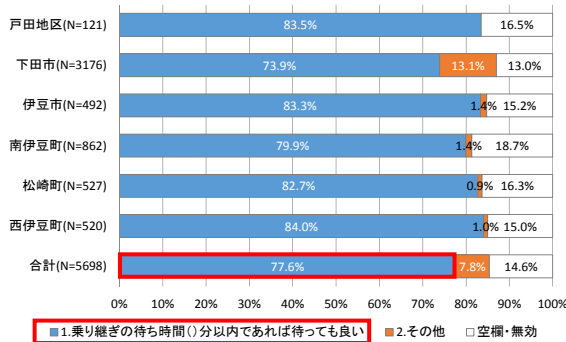


図 96 乗継ぎ待ちの可否

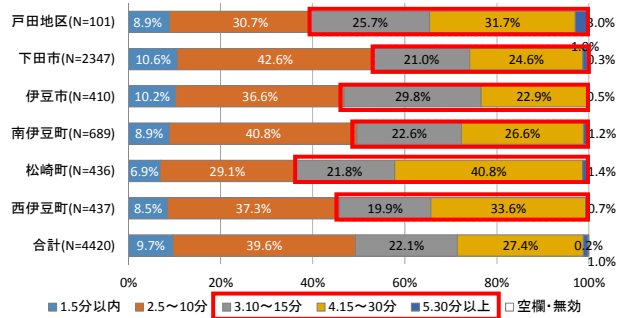


図 97 乗継ぎ待ちの許容時間

乗継ぎに必要なと思う機能は、「屋根」「ベンチ」「トイレ」「バスの発着時間が分かるような情報案内板」などがあげられており、乗り継ぎをするための結節点には、これらの機能を整備することが求められる。

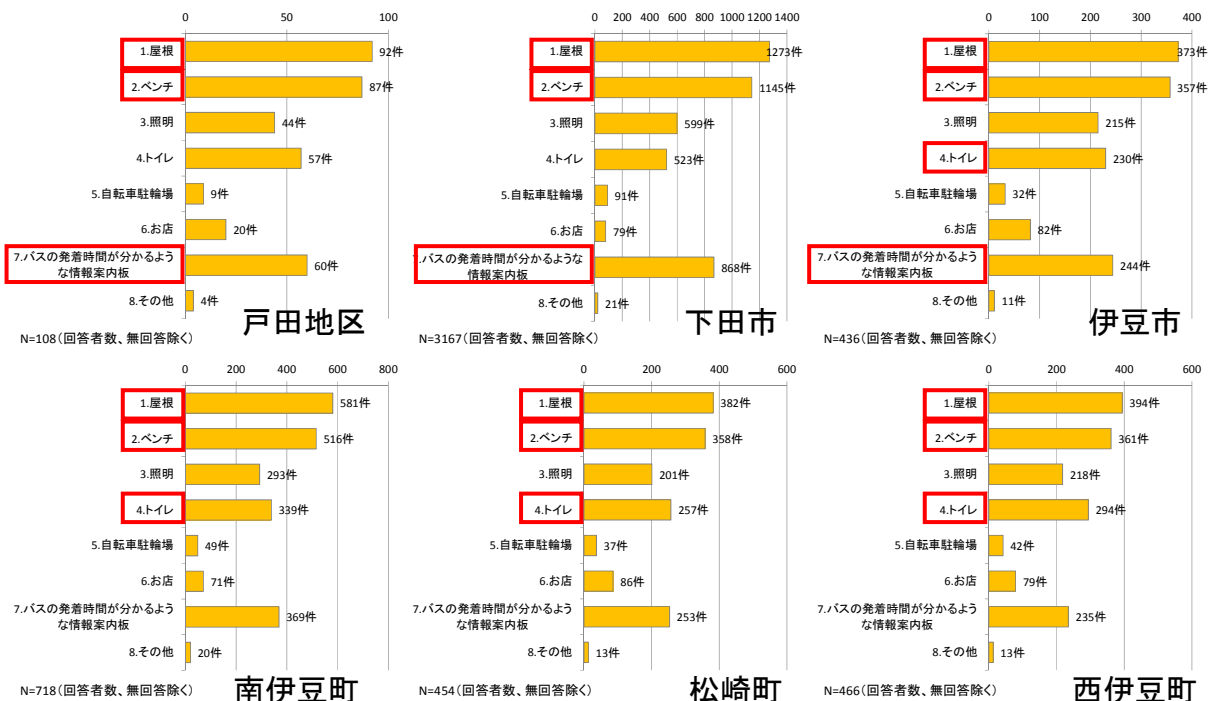


図 98 乗継ぎに必要なと思う機能

(2) 高校生の通学実態

○高校生の通学実態（高校生アンケート調査より）

伊豆箱根鉄道及び東海バスが沿線高校 19 校を対象に公共交通の利用に関するアンケートを実施した。

路線バスを利用する生徒の割合は、全体の 30%程度である。

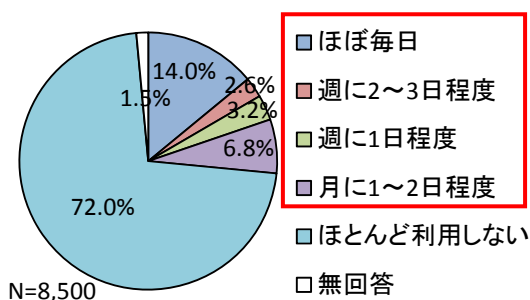


図 99 路線バスの利用頻度

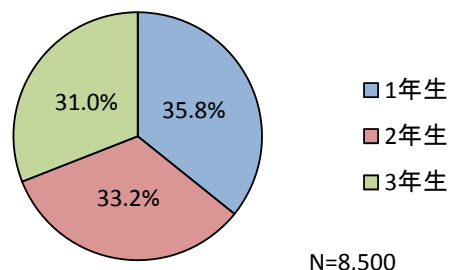


図 100 学年

※対象高校は熱海高校、伊東高校、伊東商業高校、伊東高校城ヶ崎分校、稲取高校、下田高校、下田高校南伊豆分校、松崎高校、土肥高校、伊豆総合高校、伊豆中央高校、沼津工業高校、沼津商業高校、韮山高校、田方農業高校、三島南高校、三島北高校、三島長陵高校、沼津城北高校の 19 校

■通学の移動実態

通学時には 7 時台、帰宅時には 19 時台を利用している生徒が最も多い。

路線バスを利用しない理由は、「運行本数が少ない」が最も多く、運行サービスの強化が求められている。

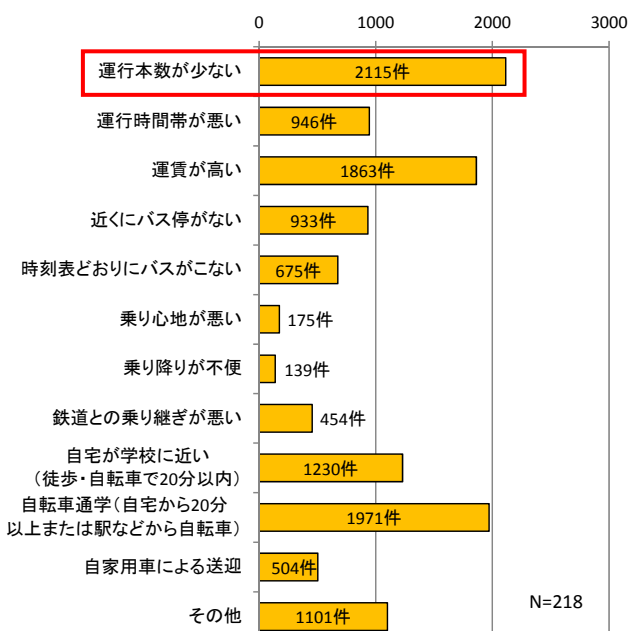


図 102 路線バスを利用しない理由

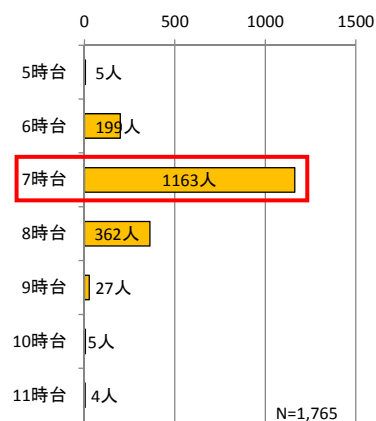


図 101 利用時間帯（行き）

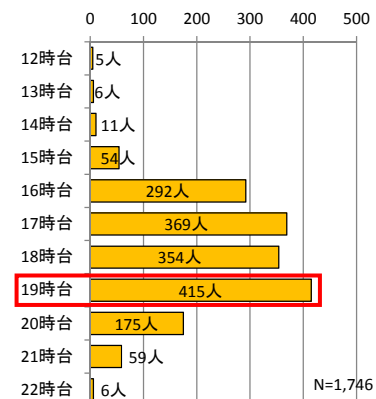


図 103 利用時間帯（帰り）

(3) 高齢者ニーズ

○高齢者の公共交通の利用実態・ニーズ（高齢者聞き取り調査より）

- ・高齢者聞き取り調査と公共交通の啓発活動を沼津市戸田地区、下田市、南伊豆町、松崎町、西伊豆町の各1地区と伊豆市の土肥地区、中伊豆地区、天城湯ヶ島地区3地区の計8地区で実施した。その結果、8地区中6地区では今後の路線バス利用について、「バスを利用したい」と回答した人の割合が「利用しようと思わない」よりも高い結果となった。
- ・運転免許の保有については、4地区（沼津市戸田地区、伊豆市の土肥地区と天城湯ヶ島地区、松崎町）では「免許を持っていない」と回答した人の割合が高く、自動車以外の移動手段の確保が必要であると考えられる。
- ・自宅から最寄バス停までの徒歩での所要時間について、「5分未満」「10分未満」と回答した人を合わせた割合*が全ての地区で70%を超え、自宅からバス停が比較的近いことが分かる。
(※…沼津市戸田地区90%、下田市85%、伊豆市土肥地区97%、伊豆市天城湯ヶ島地区90%、伊豆市中伊豆地区92%、南伊豆町91%、松崎町92%、西伊豆町75%)
- ・路線バスを利用しない理由については、各地区で意見の多い項目が異なる傾向が見られた。下田市、伊豆市土肥地区では「利用したい時間にバスが運行していない」という意見が多く、利用者ニーズに合わせた運行を検討することが望ましいと考えられる。また、松崎町、西伊豆町では「目的地までの運賃が分からない」「時刻表や表示の字が小さい」といった情報提供に対する意見が多いことから、啓発活動等を通じたバス運行の情報提供が有効であると考えられる。
- ・今回の調査では、バス交通の説明を行い、利用促進につなげることも目的として実施した。説明会を通じてバスを利用しようと思ったかを確認したところ、地区ごとに「利用しようと思う」との回答を得ることができた。半数以上が「利用しようと思う」と回答した地区もあった。
(※…沼津市戸田地区89%、下田市60%、伊豆市土肥地区58%、伊豆市天城湯ヶ島地区30%、伊豆市中伊豆地区50%、南伊豆町54%、松崎町23%、西伊豆町62%)

表 29 バス交通の説明を聞いた結果、利用すると回答した人の集計

回答者数				
	回答者数	過去1ヶ月の 路線バス利用者 (A)	説明会を受けて利用すると 回答した回答者数 (B)	増加 (A) - (B)
沼津市・戸田地区	38	1	34	33
下田市	20	6	12	6
伊豆市・土肥地区	31	14	18	4
伊豆市・中伊豆地区	12	3	6	3
南伊豆町	44	11	24	13
松崎町	13	1	3	2
西伊豆町	39	5	24	19

※天城湯ヶ島地区は利用意向の調査項目に関する回答者が半数（半数が未回答）であったため上表より除外

回答者割合				
	回答者数	過去1ヶ月の 路線バス利用者 (A)	説明会を受けて利用すると 回答した回答者数 (B)	増加 (A) - (B)
沼津市・戸田地区	38	3%	89%	87%
下田市	20	30%	60%	30%
伊豆市・土肥地区	31	45%	58%	13%
伊豆市・中伊豆地区	12	25%	50%	25%
南伊豆町	44	25%	55%	30%
松崎町	13	8%	23%	15%
西伊豆町	39	13%	62%	49%

バス交通の説明を行ったところ、過去1か月にバスを利用した方の数に比べて、今後バスを利用しようと思うとの意向を持った方の数が増加した。

- ・この結果から、利用促進策が有効であることが期待できるが、実際の乗降につながっていくかどうかは、次年度以降の乗降調査の結果等で検証する必要がある。地域全体として、今回のような調査を通じての情報案内や利用促進ツールの提供、モビリティ・マネジメント施策の実施についての可能性が期待できるものである。

1-4 現状と問題点のまとめ

1 地域の概況

■地形、土地利用

- ・山地が海岸まで迫り平地が少ない半島特有の地形。中小河川沿いや入江周辺に集落が形成。
- ・バスが通行可能な道路に限られるため、幅員が5.5m以上の道路の大半がバス路線として供用。

■上位計画等

- ・ふじのくに総合交通計画：生活と観光が融合した市町の垣根を越えた取組の推進を位置付け。

■人口分布、人口推計、高齢化

- ・修善寺駅周辺、伊豆急下田駅周辺など市町の中心部、国道等の幹線道路沿い、中小河川沿いや入江周辺に人口が分布しており、街はコンパクトに形成されている。
- ・高齢化率が高く（H26年40.7%）、他地域に比べて人口減少が進行。将来は、市町中心部も減少する。
- ・世帯あたりの人口は2.3人まで減少。家族の送迎も難しくなるおそれがある。

■学校、病院等の施設立地

- ・公共施設、医療施設、商業施設は、市町中心部やバス路線沿いを中心に立地している。
- ・高校への通学や、順天堂大学附属静岡病院への通院等、日常生活に広域移動が発生している。
- ・これまでも学校の統廃合が行われ、今後も伊豆市で予定されており、長距離通学の生徒が増加する。

■観光資源等

- ・地域の観光資源の多くはバス路線沿いに立地しており、公共交通による周遊も可能である。
- ・地域間を接続するバス路線沿いに、地域の拠点となる道の駅が立地している。
- ・平成27年に整備された「道の駅くるら戸田」は市民窓口等を備え、地域住民の拠点施設となっている。

2 公共交通の状況

■公共交通の現状

- ・当地域内では鉄道、路線バス、フェリー、タクシーが運行しており、ネットワークを形成している。
- ・路線バスは、平成23年に三津戸田線が廃止となったが、平成25年からデマンド「ふじみGo!」が運行し、カバーしている。
- ・公共交通による人口カバー率は68.5%であり、交通空白地域が存在している。
- ・高校通学、病院への通院がしやすい地域と、通学や通院が困難な地域が存在している。

■交通結節点

- ・地域内の交通結節点では、乗継ぎが悪い時間帯や、観光の情報発信の機能がない箇所が存在する。

■鉄道、フェリー

- ・鉄道、フェリーともに、利用者数は横ばい又はやや増加傾向であるが、今後の維持が課題。
- ・修善寺駅は約5,000人/日、伊豆急下田駅は約3,500人/日、フェリーは約570人/日の利用。

■バス路線

- ・東海自動車(株)グループでは、近年利用者数が減少傾向、伊豆箱根バスについては横ばい。

- ・路線バスの収支率は、全体で63.6%（東海バス72.1%、伊豆箱根バス62.9%、市町自主運行バス45.3%）であり、地域全体で4億円近い経常損益が発生している。

■タクシー

- ・タクシー事業者は対象地域内に9社あるが、営業所は伊豆市、下田市、西伊豆町、沼津市戸田地区に限定されており、営業所のない又は車両数に制約のある地域でのデマンドタクシーの検討に制約がある。

3 利用者の移動実態とニーズ

■通勤・通学の移動実態（国勢調査）

- ・自市町内の通勤通学が多い一方、南伊豆町・松崎町から下田市方面、伊豆市から三島市方面も多い。

■観光客アンケート（公共交通で訪れたことのある人）

- ・当地域への来訪者の6割は他地域に立ち寄っており、熱海市、伊東市、三島市と合わせた周遊形態が多い。
- ・当地域への来訪者の半数が1市町のみを来訪している。次に、2市町を周遊する移動が多く、特に伊豆市と下田市の2市を来訪する観光客が多い。
- ・「移動に長時間を要する」という意見が多いことから、自動車に比べて公共交通の移動に所要時間がかかることが影響しているものと考えられる。
- ・当地域を訪れる観光客のうち約7割が、伊豆地域の周遊パスを「全く知らない」と回答している。

■公共交通利用実態（バス乗降データ）

- ・西海岸ルート（西伊豆特急、西海岸線）では、三島駅～修善寺駅間と松崎～長八美術館間の乗車が少ない。
- ・市町自主運行バスでは、朝夕の時間帯を除き乗車が少なく、平均乗車密度が1を割る路線がある。
- ・地域間を接続する路線について、他の路線との重複や、乗車が少ない時間・区間が存在する。

■住民アンケート調査

- ・当地域の住民の交通手段は、自動車の利用（送迎含む）が70%程度、鉄道とバス利用の合計は、10%前後、その他が20%の割合となっている。
- ・市町によって、通勤・通学、通院などの目的別に利用する交通手段の割合が異なる。通勤・通学では、伊豆市や沼津市戸田地区での鉄道・バスの利用の割合が比較的高く、通院では、南伊豆町や松崎町での鉄道・バス利用の割合が比較的高い。
- ・買い物、通院の外出先としては、自市町内の商業施設、医院が多いが、順天堂大学附属静岡病院、下田メディカルセンターなどは広域移動する利用も多く見られる。
- ・鉄道を利用する割合は伊豆市、下田市が高く、バスを利用する割合は沼津市戸田地区、伊豆市が高い。
- ・バスを利用する理由は、「自宅やバス停が近い」とする意見が、下田市や伊豆市で比較的多い。
- ・公共交通が改善された場合、利用したいという意向は70%ある。

■高校生アンケート

- ・路線バスを利用していない生徒は70%を超え、ほぼ毎日利用している生徒は14%である。